



支部だより No.148

日本山岳会京都・滋賀支部

2022年 9 月 15 日

爽やかな秋を求めて

支部長 松下征文

短い梅雨が明けて連日の猛暑日熱帯夜が続き、水不足や電力不足を憂慮している間に台風4号がゆっくり近づいてきました。その間地震も頻発し、防ぎようのない日々が続きます。

コロナ感染者は減少しているかと油断している間にじわじわと増えてきたようです。第7波とならないことを願っていましたが、第7波の感染拡大となりました。疫病退散を願う祇園祭が再開されましたがコロナ禍は収まるでしょうか。梅雨明けした後は便利な戻り梅雨という言葉がぴったりの雨天日続きでした。

そんな中を会員の皆様には古道調査や企画山行を実施していただき頼もしく思います。高齢化どこ吹く風です。若い方から高齢者までの活発な活動が新会員を迎えるパワーとなっています。

会員の平均年齢は高くても山行活動会員の平均年齢は若返ってきました。若い会員の活動を支援しましょう。登山技術の指導向上と、リーダー育成等出来る事をしっかり伝えていきたいものです。

「山」6月号のトップ記事を若い方はどう感じてくださいか、これからのヒマラヤクライミングを示しています。

登山を単なる遊び、スポーツとして割り切るのは難しいですが、それぞれの目標を持っていただきたい。

暑すぎる夏も収まれば、新たな山行意欲も沸き上がり、古道調査や個人山行も活発になることを期待しています。古道調査は山岳会の歴史に残る大イベントです。一人でも多くの会員に参加していただきましょう。新会員の方は積極的に参加してください。山登りのいろいろのことを学べる機会です。友の会の方も是非参加してください。

山の本の行方、全国先輩会員さんも、若い修業時代から読んできた蔵書の先行きを心配されています。京滋支部でも多くの方が苦勞し悩んでいると思います。支部では提供された蔵書を図書委員の方に管理してい

ただいていますが、場所等に限界があります。支部会員がいつでも自由に集まれる支部ルームやサロンというものがあればいいなと思うばかりです。支部会員からの提案等をお聞きしたい。

暑さ疲れが出ないようにと思いつつお願い事項です。友の会会員の方には早く本会員、準会員への入会をお願いします。

個人山行でも登山計画書の提出を忘れないようにしてください。

山岳保険の契約期限切れ等にご注意ください。

会員の皆様にコロナ感染や、猛暑の疲れが出ないことを祈っています。

巨木探訪シリーズ

越前勝山 平泉寺白山神社

(自然保護部会 4 月例会)

岡田茂久

2022年4月28日。福井県勝山市への巨木探訪である。四条大宮を8:30出発、天気は心配していたが上々で、安曇川筋からR303に入り追坂峠道の駅で昼食を調達(10:15～10:35)。「こごみ」「蕨」「こしあぶら」「タラの芽」が出品されていたので土産とする。

国道8号を経て敦賀から北陸道高速道に入り(11:00)、福井北ICから現行は無料である中部縦貫道を勝山ICで降りる。えちぜん鉄道勝山永平寺線の踏切を渡り、線路と並行する九頭竜川堤防沿いの県道を、えちぜん鉄道終点の勝山駅交差点まで行き勝山橋を渡る(12:00)。

えちぜん鉄道が京福電鉄越前本線時代には、特急・急行もあり勝山から先の大野市まで線路は伸びており、福井と勝山間の永平寺口駅からは永平寺線が分岐し、曹洞宗大本山永平寺まで参詣路線として賑わっていた。残念ながらえちぜん鉄道に譲渡時に勝山永平寺線と名は残ったが、永平寺線と勝山から大野までは廃線となり勝山が終着駅になってしまった。風情のある重厚なえちぜん鉄道勝山駅舎は、1914年開業当時のもので有形文化財に登録されている。

勝山橋からは正面左手に越前甲（1319.7）から大日山（1368）に続く加越国境の山並みが、意外に高く連なり、正面奥は取立山（1307.3）、右手に法恩寺山（1356.3）経ヶ岳（1625.2）が大きく山裾を広げ見飽きない展望である。法恩寺山から連なる尾根の山麓には越前大仏の大伽藍が遠望できる。

今日の第一目標は越前大仏の所在地にある「片瀬の大杉」、越前大仏前を過ぎて進入できそうな道を山側に入ってみる。越前大仏東門の上部に登り着いたが「大師山」登山口で車は行き止まり。傍に建っている廃寺らしき寺域にも「大杉」らしきものは見当たらず、地図で500mほど南に位置する神社に向かう（12:15）。

正面に立派な天守を構えた白亜の城館が立ちはだかっている。1987年に地元出身の相互タクシーの創業者が、総工費何百億円円で建築した「越前大仏」に続き、勝山城跡に1992年に建設した「勝山城博物館」である。元々、幕藩時代から勝山城には天守は存在しなかったのだから歴史の改竄もいいところである。

博物館手前にある「白山神社」が目的地「片瀬の大杉」の所在地であった。本殿の脇に本殿軒高さぐらいで2本に別れている融合木。樹齢300年程度、幹周6.5mもあるが案外に細く見える巨木である。この地方では神社と言えば「白山神社」が多い（12:20～12:35）。

境内を出て南下、「勝山城博物館」前の県道交差点を平泉寺参道方面に行くと、道路右脇におにぎり型の「史跡白山平泉寺心？境内」の碑と積石風の「白山国立公園」の碑があり、道路左脇にある角ばった字体で「道」とあるのは「日本の道百選」のプレートであろうか。

行く手には、それぞれが巨木と言いたいほどの立派な杉並木の参道が続いている。「菩提林」といい「平泉寺7本杉」に数えられている。参道はやがて舗装された参道と敷石の旧参道が並行するようになり、なんとも言えない風情がある。「美しい日本の歴史的風土百選」「香り風景百選」「日本の道百選」「歴史の道百選」と4つの百選に選ばれた道で、時間があれば是非とも歩いてみたい道である。

「平泉寺白山神社」（12:50～13:00）。開山は717年。白山に登拝した泰澄（たいちょう）大師が、この地に湧き出る泉で神託を受け社殿を建てたとされる。神仏習合の白山信仰の越前側の禪定道の拠点として山伏僧兵が集まり、平安後期には天台宗比叡山延暦寺の末寺として発展し、朝倉氏の保護を受けていた室町時代後半の最盛期には、僧房6千坊、僧兵8千人を擁する巨大な宗教都市を形成していたという。

織田信長に侵攻された越前の戦国大名当主朝倉義景を裏切り、信長に従属した従兄の朝倉景鏡が反信長の一方向一揆に攻められた際、平泉寺が彼らを匿うと今度は平泉寺が一方向一揆の攻撃対象となり、1574年の襲撃

で堂塔の全てを焼かれてしまう。その後に秀吉により再興されたが、明治の神仏分離政策で寺号が廃され白山神社となった。「平泉寺白山神社」は日本では珍しい石造の遺構で、街路面は九頭竜川で採取した丸いごろた石の石畳み、建物を守る石垣は山からの切石で造成する「野面（のづら）積み」という日本古来の積み方がされている。深い森に豊富な湧水と豪雪に守られて苔寺始めとする京都の寺院と比べてみても、比較にならないほど苔類が繁茂し素晴らしい景観が広がっている。現在、旧平泉寺境内は未だ発掘調査途中であるが「国史跡」に指定されている。

ちなみに福井の観光名所に名を遺している「東尋坊」は平泉寺の僧の名である。

今回は観光は後にしてとりあえず巨木探訪を優先とする。平泉寺白山神社探訪の要となる「北谷の六地藏」の駐車場に駐車。六地藏の脇にある「大杉」も平泉寺七大杉の一本らしい。地上すれすれで二又に別れているが根張りも大きく立派である。

駐車場から白山神社本殿方面に向かい、本殿への石段精進坂手前を左折し若宮方面に向かう。境内の要所にある「白山平泉寺散策マップ」で「⑧謀反岩」前から左の小道に入る。しばらくで「⑨中世の石畳」に合流、丸い河原石の石畳道で森の中の道は滑りやすい。やがて複雑に枝が入り組んだ大杉と小さな祠に着く「若宮八幡宮」。小さいながらも歴史書に名を残す名利で大杉（幹周5.3m）と共に1574年の戦乱にも唯一焼け残り、450年の歴史の重みを今に伝えている。しばし、



勝山市片瀬 白山神社大杉（幹周 6.5 メートル）



勝山市平泉寺白山神社
若宮八幡宮大杉（幹周 5.3 メートル）

感慨にふけるも直ぐに道の駅で調達した弁当を広げる(13:15～13:35)。

帰途のコースは森を抜けると直ぐに舗装道路となり、少し先で発電所の上部水槽らしい水量の豊富な水路脇に出る。500メートルも降ると神社があり本日目標、「平泉寺7本杉」の一つ「神明神社の大杉」(幹周5.5m)であった。(13:45～13:55)、この杉も根元近くで2本に別れた複合木で見る方向で太さが極端に変わる。杉の大木は多くの樹木に囲まれ全貌が見難いのが惜しまれる。

駐車場への到着は(14:10)、駐車場手前に10個以上も建築物の土台にするのか、巨大な石造物の集積は度肝を抜くほどの迫力であった。

※「平泉寺白山神社」が通称名。国史跡名は「白山平泉寺旧境内」

勝山IC(14:25)。福井IC(14:40)。敦賀IC(15:20)。四条大宮(18:00)

実施日：2022年4月28日(木)

参加者：能田 成、山村孝夫、柏木俊二、方山宗子、岡田茂久

山歩会例会

龍王山(586m)と山野辺の道

古谷英二

集合：近鉄京都駅改札口前 8時

8:11 橿原神宮前行に乗車、平端で天理線に、天理でJR万葉まほろば線に乗り換えて柳本駅 9:27 着

行程：柳本駅→崇神天皇陵→龍王山→長岳寺→柳本駅

古都・奈良盆地を取り囲む青垣の山並み。その最高峰が今回の舞台・龍王山。古代の道・山の辺の道を行くと、まず目に入るのが巨大古墳群。実は龍王山は古代より「魂が帰る山」と呼ばれた聖なる山。また山腹には600基もの小さな古墳群が見つかっている。葬られたのはいったい誰なのか？ さらに山頂付近には不思議な泉、そして中世の山城跡も。「山高きがゆえに貴からず」。歴史に彩られたロマンあふれる山を堪能！

2022年3月1日放送 NHK 吉田類のにつぼん百低山「龍王山・奈良」のコメントだが、まさしく今回の山行を物語るため引用した。

当初、4/26火曜日を予定していたが、雨のため4/30土曜日に変更、当初参加を予定していた方で延期のため参加できなかった方、ごめんなさい。



龍王山山頂にて

柳本駅から黒塚古墳へ、古墳時代中期に築造されたと推定される、全長130mの前方後円墳。中世から近世にかけて柳本城の一部に利用されたこともあるそうだ。崇神天皇陵を経て巨大古墳群へ(10:51)、龍王山の西斜面、標高150～450mに点在する古墳群。円墳と横穴がそれぞれ300基、あわせて600基に及ぶそうだ。珍しいのは横穴で、崖や山腹など自然地形をそのまま利用している。その後、長岳寺・奥の院(11:42)、若々しい表情をした肉厚の不動明王(鎌倉時代作)と石像がひっそりたたずむ。そして、柳本龍王社、樹間に小さな祠が一つある(12:10)。その後、ようやく龍王山城跡、我々は展望台のある南城本丸跡の山頂に着いた(12:22)。中世の豪族、十市氏が築いた大和を代表する山城の跡である。その眺望の良さに驚いた、北から生駒山、双耳峰の二上山、大和葛城山、金剛山が望め最高の眺望だ。

長めの昼食休憩を取り下山、希望者が長岳寺を見学し柳本駅より京都駅へ、終日いい天気恵まれ最高の山行となりました。

距離：9.3km

累積標高 上り／下り：584m/583m

消費カロリー：2401kcal

実施日：2022年4月30日(土)

参加者：中川 寛(L)、大倉寛治郎(SL)、能田直子、宇都宮道人、

(友の会)川寄紀久子、橋本裕子、古谷英二、(一般)村山尚子

今西錦司レリーフの集い

駒井治雄

植物園北入口に参加者全員が集合、中川さんの挨拶があり、その後大槻さんから今回の行動内容の説明が行われました。今回新しく参加された藍野さんが紹介され、藍野さんは某有名雑誌の取材や執筆を経験され、生まれ育った関東を離れ京都に住まいを移されたとのこと。車3台に分乗し、上賀茂から鴨川の源流雲ヶ畑川を北上して中津川出合橋から右へ中津川に入り、途中から車2台に分乗し滝谷峠分岐まで入りました。昨年は大きな倒木があり時間がかかりましたが、今回は枝切りや石の除去があった程度でスムーズに入ることができました。

ここで車を止めて山行準備を整え、登山道整備に必要な機材を全員で手分けして持ち出発。昨年撤去できなかった倒木を除去するグループと整備した道をより歩きやすくするグループに分かれて行動。大槻さん、大倉さんが扱うチェーンソーが唸りを挙げ倒木を切断、私が補助し少しずつ前進、岡田さん、笠谷さん、藍野さん、田中さん、中川さん、野村さん、山崎さんが石や丸太を集め道を整備する形で進行しました。途中九輪草が群生をなし鮮やかな色で私達の目を楽しませてくれました。九輪草は水が清らかでないと咲かないと聞いたことがあり、この地域はそれに適しているんだなあとと思いながら作業を進めました。

レリーフに到着、少しゴミを取る程度で去年のように階段の整備をしなくてもとても綺麗な状態でした。献花、献酒をし、中川さんがお話をされ、全員写真を撮り終えた後、朝倉さんの散骨された場所で線香を上げ一人一人が故人の冥福を祈りました。

昼食の場所である北山荘へ、山荘入口の扉を開け、真っ暗な中一つ一つの窓を開けると明るい光が部屋一面に広がり、山小屋の本来の雰囲気や囲炉裏の匂いと共に醸し出されました。昔の小屋はもう少し下に位置し、「北山の小舎」発祥の地と標識が立ててあります。石碑の文章の中に雪山賛歌の煙い小舎とはこの小舎のことであると書かれています。

昼食後少し皆さんが小舎の周りを思い思いに散策した後、大槻さんが美味しい小川コーヒーを淹れ、皆さんに振る舞われました。良い香りが漂ったところで、大槻さんから、京都新聞に連載された丹波、京都、近江の山々の記事を基に本を出版する計画を京都新聞社と話し合っており、皆さんと協力しあい進めたいとの提案があり、皆さんがそれに賛同し終えてから小舎を

元通りにして帰路につきました。

小舎を離れるとき、田中さんが今日は素晴らしい空やなあ！と言われ空を見上げると、本当に綺麗な空が山々の間から見えました。

帰路でも、もう一度点検しながら、邪魔な木や枝を払いながら進みましたが、最後一か所チェーンソーのガソリンが無くなり、来年に持ち越しになりました。

全員の力を合わせてやれば案外スムーズに事が運びました。来年の今西錦司レリーフの集いに多くの岳人が集うことを願います。

9:00 植物園北門、10:10 出合、11:45 レリーフ着、12:00 セレモニー、12:30 北山荘着、13:50 出発、14:40 出合、15:10 解散

実施日：2022年5月8日（土）

参加者：中川 寛（L）、藍野裕之、大倉寛治郎、大槻雅弘、岡田茂久、笠谷 茂、駒井治雄、田中昌二郎、野村綾子、山崎 泉



今西錦司レリーフの前にて

近畿二府4県の低山の一等三角点を登る

コウノ巢山 標高 119.71m

（点名友ヶ島：和歌山）

竹下節子

7時30分京都八条都ホテル前に参加者6名が集合。

車一台に乗合わせ京都南インターから2時間ほどで加太港に着いた。船は11時発なので随分待ち時間がある。港の風に吹かれながらのんびり待機しよう。しかし乗船は先着順、早々とチケットを買って早々に並んだ。そして乗船、コロナ対策で座席は少なく概に満席の状態だ。早く並んでよかった。汽船乗り場から約20分で野奈浦桟橋に着いた。友ヶ島4島（地の島、虎島、神島、沖ノ島）の一番大きな沖ノ島の北側に降り立っ

た。今日は幸運にも雨予報が一転して良い日になった。見たことのない山と海と土地、歴史と一等三角点のあるタカノス山を目指して歩こう。

11時30分、歩き始めは野奈浦より海岸線を西へと進む。ナルトサワギクの黄色が道端のあちこちを彩って美しかった。道は荒れているが広くて歩きやすい。池尻浜の海岸を過ぎて蛇が池を左に見て南へゆけば第2砲台跡（※1由良要塞の一つ）がある。煉瓦造りの要塞は蔭が蔽っていて何とも心惹かれる風景だった。また破壊されたのか、朽ちたのか、まるでオブジェのような要塞も残っていた。この一帯はジブリアニメの中に迷い込んだようなノスタリジナな場所だった。

ここから300mほど樹林を行けば友ヶ島灯台に辿り着く。明治5年に造られた日本で8番目の灯台だそう。紀淡海峡をゆく船舶の安全を今も照らし守っている。海と山と白亜の灯台が美しくて目的を忘れてしまいそう。しかしランチタイムは忘れない。12時10分灯台の西にある子午線広場でランチをとった。日本最南端の子午線塔（友ヶ島135°）が建っている。リーダーはそれを見るカップルや通る人に楽しそうに「子午線の子は北、午は南」とレクチャーサービスをする。私も興味深く耳を傾けた。そんな和やかな時間がランチとともに流れた。いよいよ目的地まで高度差70m。13時20分 樹林の坂道を登り最後の階段を登り切れば標高：119.71 m 点名：友ヶ島 一等三角点のあるコウノ巣山展望台に着く。一等三角点は、高さ120cmほど



タカノス山展望台より
友ヶ島灯台 紀淡海峡 淡路島

の石積みに囲われた円柱型の盛土の上にあった。各々がその高さを「どっこいしょ」と、よじ登って標石にタッチした。初期の点の記によると明治18年に三原昌氏によって選点され明治20年に標石埋定が抹消と点の記に注釈があるという。そして明治36年に埋標となっている。そばの案内板には明治18年設置と記してある。標高は119.90mと20cmほど高く。調べると所在不明点となり再設され現在と相違するとあった。その現在がいつかは不明確である。

集合写真をとって、紀淡海峡を見下ろすベンチでコーヒータイム。コーヒーとみかさを頂き眺望を楽しんだら第3砲台跡へと向かう。紀淡海峡を赤いコンテナ船がゆく、眼前の淡路島を背に一等三角点のコウノ巣山展望台を降りた。

第3砲台跡の道標に導かれて見たのはレトロな煉瓦造りの美しく大きな要塞だった。その昂然たる内部にヘッドライトを点けて入った。地上から階段を下りると砲台跡、弾薬庫跡、地下兵舎跡等々があった。未知の戦争遺跡が地下トンネル内に繰り返し連なっていた。静寂の地下深部は室内灯がほの暗く悠久の時の流れを照らしていた。

これらは旧陸軍が国土防衛のため日清戦争（明治27年～28年）が始まる前の明治25年5月に建造したそう。友ヶ島は軍事用要塞として明治後期から第2次世界大戦が終わるまで一般の立ち入りを禁止してこの土地、この海を護ってきたと記されている。また時を同じくして今日の目的地の点名：友ヶ島一等三角点の標石埋票も明治18年から明治36年の旧陸軍と関連する出来事である。選点から埋票される間は要塞建造と重なり埋定不明点や盤石無しの要因はここにあるのではないかと想像する？

14時過ぎには野奈浦の汽船乗り場へと足を進めた。すると桟橋に大勢の人がいる。船が遅れているようだ。私達はラッキーなことにひとつ早い船に乗ることができた。お蔭で明るい時間に帰宅することができた。

本来なら野奈浦から目的地の一等三角点まで約900m、所要時間は約15分だ。しかしリーダーの計らいで観光コースにも立ち寄って下さり約4kmの道のりを楽しませてもらった。見たことのない山と海と土地、歴史は想像だにできなかった。初めて見たこと聞いたことが頭の中を渦巻く。驚くほど意表をつく友ヶ島だった。未だ複雑な余韻が冷めやらないでいる。

最後に締めくくる言葉も浮かばないので感謝の言葉で終わります。

皆様には友ヶ島にご一緒して頂き感謝の念でいっぱいです。

本当に「ありがとうございました。」

《参考》

※1 淡路島の由良地区に11、友ヶ島地区に6、加太地区に8の砲台を「由良要塞」と称す。

第2砲台：起工1894（明治27）年8月／竣工1898（明治31）年4月

第3砲台：起工1890（明治23）年10月／竣工1892（明治25）年5月

実施日：2022年5月15日（日）

参加者：大槻雅弘（L）、幣内規男、中川 寛、山崎 泉、
竹下節子、
（友の会）川寄紀久子



保護石4個に守られた低山の一等三角点
標高：119.71m 点名：友ヶ島

歴史と文化の山旅

高地性集落遺跡から高座の滝

伊原哲士

雨が続けていた。ところが5月21日だけ晴れた。予定通り、阪急芦屋川駅に7人が集合した。5月の日射しは厳しい。アスファルトの住宅街の道を登っていく。途中で会下山遺跡と高座の滝の分岐の標識。会下山遺跡の方へ向かう。芦屋市立山手中学校の裏手の地元路を通り抜け会下山遺跡の入り口にたどり着く。イノシシが街に降りて来ないように柵を開閉して登山路に入る。

急坂を抜けると会下山遺跡だ。縦穴住居跡・祭祀場跡・墓地などがある。高地性集落の中心に在るのだろうか、高床倉庫が再現されている。

1956年山手中学校の生徒が裏山の会下山で植物実習園をつくる為の道づくりをしていた、生徒が弥生土器の破片を多数発見した。この発見を受けて約5年間にわたって発掘調査がおこなわれた。会下山山頂から尾根に

かけて竪穴式住居跡や土器や石器が出土した。約2000年前の弥生時代の高所性集落跡で2011年に「会下山（えげのやま）遺跡」として国の史跡に指定された。

弥生時代の人々は低地で稲作を中心として生活していた。低地で農耕して、高所に集落が在ったのは謎である。様々な説がある。「争いに備えた逃げ城説」「洪水など自然災害避難説」「木器素材入手説」「鉄器制作説」「蚊など害虫退避説」などだ。

会下山遺跡では談義が弾んだ。日本山岳会や京都・滋賀支部に関係する岳人の話に時を忘れた。時間が随分と過ぎ、暑気もあり風吹岩を目指したが時間切れとなり蛙岩で昼食休憩。そこから引き返して高座の滝へ向かった。

会下山遺跡と高座の滝の分岐の標識から、高座の滝へのアスファルト道を行くと高座の滝。藤木九三氏のレリーフがある。藤木九三氏は六甲山芦屋の岩場をロックガーデンと命名した。日本最初のロッククライミングを目的とした山岳会であるRCC同人を藤木九三氏や水野祥太郎氏・西岡一雄氏と発足させた。水野祥太郎氏は関西学生山岳連盟の初代委員長。水野祥太郎氏からは昭和2年（1927年）の関西学生山岳連盟が創設された時の設立総会の議案書の複写を頂いた。来賓に今西錦司氏や西堀栄三郎氏の名前があったのを記憶している。

ロックガーデンは日本のロッククライミングの発祥だ。ゲートロックなどが高座の滝から少し登ると見えたが、良くわからなかった。

高座の滝から下山した。5月の暑気で軟弱な山になった。途中の喫茶でコーヒー休憩。芦屋川駅で解散した。

実施日：2022年5月21日（土）

参加者：伊原哲士、上野陽子、岡田茂久、川寄紀久子、
田淵元子、幣内規男、山田和男



会下山遺跡

巨木探訪シリーズ

兵庫県・香美町方面 (自然保護部会 5 月例会)

中川 寛

今月の巨木探訪は、兵庫県の北部豊岡市や香美町村岡区へ日帰りとしては遠出の探訪となる。いつものように 8:30 四条大宮出発。京都縦貫道千代川 IC から丹波篠山市へと向かい、丹南篠山口 IC から舞鶴若狭自動車道にのり、北近畿豊岡自動車道を豊岡へとひた走る。日高神鍋高原 IC を出て、国道 482 号を西へと走り、植村直樹冒険館を過ぎて道の駅「神鍋高原」で一休み。

最初の巨木は、豊岡市日高町の万場スキー場近くの万場天神社のトチノキ。幹周 7.6m、樹高 30m、樹齢 350 年の堂々たる巨木だ。地表から 4m 付近で太い枝を一本分枝して、さらに少し上で大きく分枝しながら整った樹形を作り上げており、兵庫県指定天然記念物となっている。天神社の社叢は広く、トチノキ、スギ、ケヤキをはじめ種々の木が茂り、貴重な寺社林として保全地域に指定されている。

豊岡市から長い蘇武トンネルを抜け、香美町村岡区寺河内にある寺河内神社のケヤキを訪ねた。幹周 4.5m とそれほど太くはないが、少し離れた所にある別の木の根が一緒になっており見事な根張りであった。木の前に古びた「村岡町名木ケヤキ」と記した杭があったが、2005 年の合併で村岡町は香美町村岡区となっている。



万場天神社のトチノキ

る。素戔鳴尊を主祭神とする神社の鳥居の神号額は「三寶大荒神社」となっていたが、明治 2 年に改称したとのこと。

次は村岡区日影にある天満威徳神社（主祭神・菅原道真）のヒノキ。国道 9 号線から狭い脇道に入り神社を探すが中々見つからない。スマホの詳細地図を頼りに細い道に入ると山側に真新しいコンクリート製の擁壁があり、その切れ目から古びた自然石の石段が上へと延びていた。土砂崩れを防ぐ擁壁が必要なほどの急斜面に神社はあった。境内までの 180 段の石段を登ると目指すヒノキがある。幹周 5m。創建 250 年と云われ、樹齢も同じか？

続いて村岡区作山の八幡神社のケヤキを訪ねる。国道から猿尾滝方面に入り、作山川沿いの道を上っていくと集落があり、川沿いに八幡神社がある。すぐ側の川沿いにケヤキがあった。幹周 4.6m、樹齢 300 年。小さな八幡神社は集落の氏神様で、明治 6 年に村社に列せられている。

村岡区最後の巨木は福岡八幡神社のスギ。神社は、延長 8 (930) 年 8 月に石清水八幡宮の分霊を勧請した歴史があり、大谷川と大野川に挟まれた細長い大地の先端に鎮座している。ここは古くから重要な場所だったらしく、4 基の古墳がある。一帯は「兎塚学びの里八幡山公園」として整備されている。お目当ての大スギは、幹周 7m、樹高 33m、推定樹齢 300 年以上とまだまだ勢いのある巨木であった。まわりには石のオブジェが散在し、よく整備されていた。

当初の予定にはなかったが、最後に帰り道の丹波篠山で熊野新宮神社のスギを訪ねた。国道 372 号小野新集落から西の山裾に沿って北に 300m ほど入った所に神社があり、大宝 2 (702) 年の創始と伝わる神社だ。大杉は、正面の石段を登った右手に立っており、幹周 6.3m、樹高 45m。神社は永禄 3 (1560) 年に焼失、延宝 6 (1678) 年に再建されており、樹齢は不明だが、建物と同じくらいか？ 地上 3m ほどで 2 幹に分かれている。

千代川 IC から京都縦貫道にのり、京都へと戻った。

実施日：2022 年 5 月 26 日（木）

参加者：山村孝夫 (I)、岡田茂久、柏木俊二、方山宗子、
中川 寛

北山探訪

オオクラノ尾

山崎 泉

5月28日 南丹市美山町のオオクラノ尾 826.32m(三等三角点 点名 田歌)に登って来ました。

「爽やかな山行きですなあ〜」「この綺麗な新緑色に染まりそう」「爽やかな風が心地いい」山行中に誰ともなく発せられた言葉が、今も耳に残っています。当日、京都市内は、最高気温 29℃の予報だったが、山は風が吹き抜けて気持ちよく登ることが出来ました。

美山町安掛の道の駅に集合して、そこから車2台に分乗しました。江和河川敷に駐車したのですが、河川敷には目を疑うほどの沢山の車が駐車されていました。帰宅して新聞を見て分かった事ですが、5月28日は、美山川でアユの友釣りが解禁された日。それを待ちわびていた釣り人達が清流に集まれたのだ。

リーダー八木先生のご挨拶の後、8時半前に出発。美山町江和の集落から南東へ約40分、民ケ谷林道を詰めて、右岸の支尾根に取り付けました。道は枯葉に覆われてはいたものの踏跡はありましたが、いきなり急登で始まり、足元を見るのが精いっぱい、周囲の景色を見る余裕はありませんでした。

標高約500m地点で休憩して、お茶を飲みながら空を見上げた瞬間、透過光の美しさに感動し、疲れが和らぎました。そこからしばらく緑のグラデーションカラーを楽しみながら登りました。

途中、私達の目を楽しませてくれる巨大な杉の奇木を見ました。「象さんの木」「マントヒヒの木」とか名付けて、しばし写真を撮り楽しみました。出発から2時間程で複雑な地形の標高790mへ着きました。この主尾根は広葉樹に覆われ、オオクラノ尾まではなかなか雑木林が続きました。

目的のオオクラノ尾は、10人程が車座になれる広さ



オオクラノ尾山頂三角点にて

があり、落ち着いた山頂でした。三角点は無傷で、久し振りに見る綺麗な標石でした。安着祝いに、八木先生からふるまわれた「赤いジュース」が殊の外、渴いた私の喉を潤してくれました。

ふと上を見ると「十方土尊」と書かれた木の看板が掛けられていました。何のことだろうと思っていたら八木先生が「神様の名前ですよ」とご説明されて、みんな納得、勉強になりました。

記念撮影後は、広葉樹の木漏れ日の下、標石を囲んで思い思いに昼食をとりました。

山頂を後にして10分ほど歩いた場所に、この尾根道で唯一の展望できる場所があり、南方に「愛宕山」「地蔵山」を臨むことが出来ました。そして帰路、再び出会った「象さんの木」「マントヒヒの木」にさようならを言い、標高790mに戻りました。

ここから下山ルートを変更して、尾根道を北西へ標高654mに向かいました。最初は歩きやすい尾根道でしたが、直ぐに倒木や伸びた馬酔木・ゆづり葉との戦いになりました。

また尾根道がいくつにも分かれており、複雑で迷いやすいので注意が必要でした。同行の皆さんはベテランで、常に地図と磁石で地形を確認されていて、GPSを半分頼りにしている私にとって、読図をしている皆さんの姿を見ていると、もっと勉強しなければと思いました。

標高654mで小休止。その時、サブリーダーの笠谷さんから「地図の読み方は机上でも習得できるが、山行に必要なのは地形図を読み取り、その先を見極める力ですよ。」と教えていただいた。早速その教訓を頭



「象さんの木」と名付けた大杉

に林道を目指し下山しました。地図ではなだらかな尾根道歩きのように見えてましたが、藪はしばらく続き、思うようには歩けませんでした。

そのような中、今年はまだ咲き終えていましたが、足元には沢山のイワカガミの葉が、その名の通り光り輝いて私達の心を和ませてくれました。次は満開のイワカガミの群生の中を歩きたいものだと思います。

ブッシュと挟まれた道の倒木を通り抜け、林道に降り立った時、足元の軽さに安堵し、皆さんの笑顔を見ることが出来たのは何よりでした。林道から谷を隔てた往路の林道へ渡渉し、駐車場へ着いたのは15時を回っていました。

帰路、今日の解散場所の喫茶店で、日本山岳会の京都支部発足以来、多くの著名人が活躍され、歴史を残されたその経験や知識を新しい世代の人たちへ伝えて行きたい。高齢化が進む中、それは「今」ではないのだろうか、と。貴重な話を聞かせてもらいました。

今日は、ベテランの方たちに同行させていただいて、とてもいい山登りになりました。

ありがとうございました。

コースタイム

8:00 美山町安掛けの道の駅に集合→8:30 江和河川敷に
駐車・出発→9:10 谷ヶ谷林道右岸取りつき→9:35 小休
止（標高500m）→10:40 標高点790m→11:20～12:10
オオクラノ尾山頂昼食→12:40 標高点790m→13:50
標高点654m→15:10 江和河川敷駐車場着

実施日：2022年5月28日（土）

参加者：八木 透（L）、笠谷 茂（SL）、田中昌二郎、
大槻雅弘、上田典子、山崎 泉

山歩会例会

雪野山

西田 均

前日の天気予報では、滋賀県午前中70%の降水確率で心配したが、中川リーダーの積極的な判断で例会は実施された。

JR近江八幡駅に9:00集合して、駅前バス乗り場で9:15発竜王ダイハツ行バスに乗り、川守バス停で下車した。下車すると矢張り天気予報どうり雨が降っていたが、たいしたことはなかったので、ヤッケとスパッツを装着して出発した。（9:35）

霧が立ち込めて雪野山も見えないが、東に進み、日

野川を渡り「竜王寺」門前に着いた。（9:50）すぐに「天神社」を左に見送り山道に入る。緩やかな山道をしばらくゆくと、雪野山の道標に出会う。我々は「野寺城跡」にたちよるべく右に道をとる。5分程登ると小さな広場に着いた。「野寺城跡」の表示板が立ててあった。{10:20} 地図で見ると小ピークであるが、木立と霧で何も見えない。早々に引き上げて先ほどの雪野山への道標までもどる。

そこから雪野山山頂をめざす。段々と傾斜が急になり、一汗かくころに稜線に出た。稜線を少し上ると東屋があったので小休止を取る。{11:00} その頃から雨は止んできたのでこれから天気は回復基調になるように思われた。10分程休憩した後出発する。

20分程で右側に「雪野山古墳」の立て看板があった。今は整地されて原形はとどめていないが、古墳の跡地であろう。この古墳は未盗掘で出土品はすべて国の重要文化財に指定されているとの事である。古墳の造営形態や出土品から4世紀初頭に造営されたとされている。

これは私の素人の考えであるが、二面の「三角縁神獣鏡」の出土が古墳の造営時代判定にかなりの比重を持っているのではないかとと思われる。なぜなら「三角縁神獣鏡」は古墳時代前期（3世紀後半から4世紀）の古墳から多数出土しているからである。しばし歴史のロマンに浸ったあと、すぐ上の雪野山一等三角点308.82m（点名 竜王山I）にタッチした。（11:30）

20年ほど前に、此処に来た時にはもっと展望が良かったが、今回は周囲に樹木が多く、東方に「三上山」が見えるだけである。

ここで昼食を兼ねて大休止をとった後、三角点を前に集合写真を撮った。

さて、三角点を後に出発した。（12:15）

この頃から天気は良くなってきて、雲間から青空も見え薄日がさしてきた。緩やかな坂を快適に下って行くと送電線鉄塔に出会う。（12:30）ここで初めて展望が開けて、北方に琵琶湖が望め、その奥に雲に山頂を覆われた比良山系が遠望された。

次に目前に見える277mのピークを目指す。鞍部へ下り登り返すと227のピークに着く。（12:50）ここからはもう下り一方ではあるが、コンクリートの丸太の突き出した急な下りに手間取り（13:25）に「多門院」に着いた。さらに「八幡社古墳群」のある「雪野山歴史公園」にたどり着き、山行が終了した。（13:35）

ここにも円墳が五基あり、そのうち二基は石室に入ることができた。大きな方の石室を見学したところ、明日香の石舞台古墳のミニ版のような感じがした。

帰路の「羽田西」バス乗り場まで30分程車道歩いて到着した。バスの発車時間を見ると2分前に出発した

ところである。皆浮かぬ顔をしていると直ぐにバスがきた。ダイヤが遅れているようだ。皆喜んで乗車して、終点の JR 近江八幡駅に (14:25) 到着した。駅前のロータリーにて解散した。

昨日より天気が危ぶまれておりましたが、リーダーの中川様の適切な判断で山行を実施して頂いたことに心から感謝申し上げます。後半は天気も回復して、美しい自然と歴史のロマンを楽しむことができました。参加の皆様、ありがとうございました。

実施日：2022 年 5 月 31 日 (火)

参加者：中川 寛 (L)、宇都宮道人 (SL)、幣内規男、山口基継、能田直子、竹下節子、西田 均、(友の会) 京極明美、川寄紀久子



雪野山一等三角点を囲んで

テント泊登山の会

那岐山

中塚智子

6 月 11 日 (土)、滋賀から 13 時に車で出発、14 時に地下鉄竹田駅西口にて京都メンバーと合流し京都南 IC から高速に入り、新名神茨木千提寺 PA で全員集合。車 2 台に分乗して一路中国道へ向かう。山行前から天気がコロコロ変化し、当日は曇り時々雨 (すでに時雨てる)、明日は晴れ傾向との予報を信じたい。せめてテントを張るときは止んでいて欲しいと祈る。美作 IC で降りて一般道に進み、明日の登山下山口も確認。観光マップにも載っている国指定天然記念物菩提寺の大イチョウを見に行く。高さ約 40m、目通り幹囲約 13m、樹齢推定 900 年のイチョウの木は、枝ぶりも気根 (乳柱) も見事で圧巻。秋に訪れ黄色に染まった大イチョウを見たいと思う。イチョウの木に感動した後は宿泊場所へ移動し、各自テントを張る。大きさも色も異な

る 6 張りのテント村が出現。設営後は各自で夕飯。ちなみに、私はカレーの予定であったが、途中で寄ったコンビニのデミグラス丼 (半額) に急遽変更 (美味!!)。明るいうちに、鳥の声を聴きつつ食事を済ませ、明日の山行 (出発予定は 6 時) に思いを馳せ 20 時には各テントのジッパーが閉まる。隣のテントは、あっという間に夢の中!!

6 月 12 日 (日)、4 時ごろから起きだし、各自で食事、撤収。第 2 駐車場 (トイレあり) から予定通りの 6 時に出発となった。蛇淵の滝へ続く遊歩道を歩きます。サブリーダーの歩き易いリズムで、朝一の階段を進んでいく。一度車道に合流し、登山口から C コースを進む。林道との交差点では右に進むと“名木ノ城跡”との表示があった。樹林帯の中は温度も低く気持ちよく進む。途中の水場で優しい味を堪能する。7:30、大神岩 (1000m) 着。岩というだけあって、眺望が開けていて、気持ちがいい。「神仏ポイント 1」の看板あり。大岩をぐるっと回ると、“不動明王”と書いた文字を見つける。“大日如来”も書いてあるそうだが、苔むしていて見つけられなかった。気を取り直して、稜線まで 200m を登る。道中、足元に白い花びらが落ちていたり、頭上にはサラサドウダンの花が鈴なりに咲いていたり、ついつい写真タイムになってしまう。八合目 (奈義町) の道標が唐突に現れて驚く。その先に、次の「神仏ポイント 2」の看板が出現。“須佐之男命”という文字があるそうだが見つけられなかった。8:25、稜線 (1240.3m 三角点) に到着。立派なトイレ小屋がある。冷たい強風にさらされ上着を着る。雲の流れはとても速い。ここでリーダーからの気象ワンポイント。「低気圧はどこにある?」、答えは「北半球では風を背にして左手斜め前方」と。風は北から吹いてきていたので、低気圧は南東方面 (その時の天気図は、前線を伴う低気圧が関東の南東海上を発達し三陸沖に抜けようとしていた)。山頂へ向け出発すると間もなく「神仏ポイント 3」を発見。が、ここも、大岩に文字が書かれているらしいが、よくわからなかった。

8:55、那岐山 (1255m) 山頂着。県境の山頂石碑は、岡山県奈義町と鳥取県智頭町の観光協会連名で記されている。雲は流れているが徐々に青空率が広がる。晴れてくると、登ってきた尾根、これから行くルートが見える。出発を前に地図を見ると、下山ルートもなかなかの距離である。気をひきしめて次のポイントへ歩き出す。9:30、1201m の分岐ポイント。ここから、およそ 300m の下りだ。サラサドウダン、エゴノキ、ツツジ、モミの木、ブナ、杉、シラビソなどなど、植生豊かな縦走路を快適に下る。右側には那岐山頂上への登りの尾根が見える (自分をほめたくなる!!)。

10:05、林道と合流（鞍部）。慈母峰へは高度差 100m。目の前には見上げるほどの（素晴らしい！）階段が。焦らず、足元のギンリョウソウに励まされながら登っていく。

10:45、三角点がある慈母峰（1009.4m）着。ベンチもあり景色を見ながら小休憩。朝の曇り空の強風の記憶が、先ほどの長い階段に書き換えられてしまった。気持ちは次の城跡でもある八巻山へ。どんな城跡か気になる。地図にはない林道に惑わされないように、尾根筋を、忠実にたどりながら下りていく。文化財保護エリアに入ると“遊歩道整備はありません”という看板が出てきて道は自然道になった。12:00、八巻山（746m）着。八巻城は鎌倉時代の築城で山頂付近を主郭（東西 10m、南北 40m）とした山城で、堀切や帯曲輪の跡も残る。南東の尾根続きには大別当城跡がある。八巻（はちまき）のいわれは、美女に化身した大蛇が山を八廻りも巻きしめ、我が子との別れを嘆き悲しんだという伝えによるとのこと。文化財保護エリアを出るとよく整備された遊歩道となり標高差 200m を快適に下る。大別当山（城跡）へ続く吊り橋を渡り（12:30）、大別当山へ登り返す。全体が城跡である細長い山頂を越えると東屋のある気持ちのいい展望台（12:45）。ここで見晴らしを堪能し、来た道を戻る。13:15、駐車場へ到着。計画時の 14 時より早めの下山となった。

那岐山という山は、登山道は整備されていて地元の人にとっても愛されていると感じました。樹林も明るく、このエリアに城跡が三つもあるとは、どんな歴史があるのか気になりました。色とりどりの紅葉の時期にまた訪れたい素敵なエリアになりました。

実施日：2022 年 6 月 11 日（土）～ 12 日（日）

参加者：笠谷 茂（L）、田中昌二郎（SL）、上田典子、
今中美恵子、
（友の会）古谷英二、中塚智子



慈母峰にて（背景：那岐山）

巨木探訪

巨木と川浦谷の展望 （自然保護部会 6 月例会）

能田 成

今回は岐阜県長良川の本流、支流に沿って点在する神社の大杉と川浦谷溪谷を一泊二日で探訪するものであった。梅雨の最中でもあり、少々の降雨は覚悟のうえで出かけたが、幸いなことに二日間とも雨に降られることもなく、予定探訪のすべてをおこなうことができた。

四条大宮を 8 時出発の予定が、30 分遅れての出陣となった。名神高速から東海北陸道を美並 IC まで走り、熊野神社の御杖杉を観た。幹周 10m、樹高 42m、樹齢約 1000 年の巨木は根元で二本に分かれ、片方はさらに三本に分岐していて迫力十分であった。昼食後は杉原の大杉。樹高 40m の堂々とした杉だ。ここは以前武儀郡板取村杉原であったが、行政改革によって関市に編入されたようだ。だがこの山奥が city といわれても、違和感しかない。

川浦谷は筆者にとって思うことがあるが、後述することにする。次の大杉は杉原からすこし下流の新明神社で、近くには島口小学校跡がある。幹回 6.6M で威圧感はないが、姿のよい樹である。ここで板取川から離れて、国道 256 を東へ走った。タラガトンネルは 4571m あり、岐阜県の一般国道としては二番目に長い。一番は何処だか知らない。長良川との出会いの手前、宮ヶ洞谷に沿って林道を 3 キロ程南下すると拝殿が見えてきたが、案内板もない。ここが本宮神社である。一升瓶が供えられているから、地元の人が訪れてはいるのだろうが、侘しい。おなじく那比にある新宮神社のほうは「文化財の宝庫」などと宣伝文句が石に刻まれている。本宮神社に比べると本殿も、お目当ての杉も立派だ。よく手入れがされている。天歴年間の創設というから、1000 年以上も前のことだ。杉はやや若いようだが、十分にでかく鑑賞する価値は大いにある。

これで初日の予定は終了し、郡上八幡から吉田川に沿って北東に進み、国民宿舎せせらぎに入った。この道をせせらぎ街道というらしい。この時期は、鮎漁の解禁から間がないためか、河川には多くの太公望を見かけたが、夕食のおかずにあユがでるだろうか？ 期待通りにではきたが、とても小さかった。

翌 19 日も朝から晴れ、そうとう気温が上がりそうな予感。朝食後、8 時 30 分出発。最初の訪問地は美並町の星宮（星野宮）神社。長良川本流からはずれた粥川

谷にある。ここは前日の本宮、新宮とともに高賀六社と言ひ、その昔、朝廷から派遣された藤原高光がこの谷の鰻の助けによって、この地に住みついた妖怪さる、とら、へびなどを退治した。これによりこの谷のウナギは神様となり、地元の人たちはウナギを食せず、「粥川ウナギ生息地」は大正13年（1924年）に国の天然記念物に指定されている。そのためか、この付近に鰻を供する店はない。この谷を離れたところにはある。ウナギはさておき、本殿を守護するようにそびえたつ大杉は根元で3本に分かれ幹廻は9.3M、樹高は30Mで高くはないが、幹が太くどっしりしているので見る者を圧倒する。ウナギは杉の成長にも良い影響があるのだろうか。

星宮神社から、少し下ったところ、美並町下田にも若宮神社がある。これまでに登場した同名の神社との関係はわからぬが、大杉の近くで農作業をしていた古老が我々の目的を尋ねるので、「大木を覩て歩いている」と答えたところ、「暇やなあー！」と大いに感嘆された。一見好人物風であるが、鋭い反応である。感心され、呆れられたついでに、南下して美濃市の洲原神社も訪れた。ここは正一位洲原白山と称し、祭神には天照皇大神、猿田彦命をはじめ総出演である。こんなに偉い神様が一堂に会したら、権力争いが起こらないかと俗人の心配をよそに、立派な社殿に棲んでおられる。その守備兵のごとくに立派は五本の杉の小隊がこの地を守っていて神域の趣が深い。前を流れる川では家族ずれが水遊びなどしていて平和な風景である。

美濃市片知にある金峰神社の杉は幹囲6M弱なので、これまでに見たものと比較すると立派とはいえない。ここから西へおよそ6キロの山県市相戸白山神社には二本の大杉が本殿を守っていて、左が幹囲8.3m、右が6.3m。左の大杉は周囲の石垣を無視して成長していて、いやがうえにも生命力の強さを感じる。続いて八王子八月の八王子杉（幹囲7.9m）を覩たのち、本巣市の薄墨桜を訪れた。樹齢1500年以上でAD467継体天皇御手植えとある。1922年天然記念物に指定されている。樹高は16mだが、長い年月の歴史を反映してか幹回は複雑な形状で測定不能と思われる。これは百聞は一見に如かずの見本のような立派な老木である。ただし花の季節には車で行くことは薦めないとwebにあった。今後も温暖化や風水害の危険はあろうが、長生きしてほしいものだ。

昼食後、予定にはなかったが、本巣市根尾水鳥（みどり）にある断層博物館を覩た。この地は1891年に発生したマグニチュード8.0の地震によって生じた断層（落差6メートルに及ぶ）が保存されていて、その衝撃の大きさを想像できる。この地震によって断層との因果関係がはっきりになり、その後の地震学をはじ

め地球科学の研究はおおいに発展した。地球科学の教科書には必ずでてくる水鳥断層を直接覩るのは今日が初めてである。一見の価値はおおいにある。

博物館をでて今回最後の訪問地である揖斐川町伊野の一本杉へ向かった。樹齢1000年を超え、樹高37m、幹回8.3mの巨木であったが、2018年9月の台風で主幹がおよそ7mのところまで折れてしまい、現在はその無残な姿しか見ることができない。この大木のすぐ近くにはすでに廃屋になったデイサービスセンターがあった。倒れた老木と廃屋、衰退への象徴のようなものの悲しい風景ではあった。ここを最後に高速道を一路京都へ。16時30分には京都東ICをでた。今回は天候にも恵まれ、多くの神社やその他で大木、巨木、老木を覩ることができた。これまでの巨木探訪では訪れた大木がすでに切り倒されていて、残念な思いをしたことがあったが、今回は予定以上の収穫があった。全行程のドライバーを務めたリーダー山村さん、ナビゲーターの柏木さんをはじめ全員に感謝、多謝。

実施日：2022年6月18日（土）～19日（日）

参加者：山村孝夫（L）、岡田茂久、柏木俊二、
片山宗子、中川 寛、能田 成

川浦谷のこと

以下は私の極めて個人的な体験で、支部報の報告にはふさわしくないとと思われるが、敢えて一文を草する次第である。

川浦とかいてカオレと読む。長良川の支流・板取川の上流の溪谷で、その美しさや豪快な流れについては森本次男「樹林の山旅」に詳しい。70年代の日本列島は高度成長の掛け声とともに山林の多くが開発され、林道が縦横につけられた。かつて秘境といわれた川浦谷も例外ではなく、当時はアクセスが困難であった銚子滝の手前までは行けるらしい。今回の巨木探訪に川浦谷が計画に入っていることを知って、ぜひ参加しようとおもった。

最奥の集落杉原を過ぎトンネルを抜けたところが海ノ溝谷との出会いで、駐車スペースがあり溪谷をはるか数十メートルの下に見ることができる。コバルトブルーの静、白く泡を飲んで流れる激流を覩たとき、引きずりこまれるような奇異な感覚におもわずカメラを取り落としそうになり、それとともに62年前の無念な記憶が蘇ってきた。

60年安保が終わった8月のこと、高校時代の山岳部の同級生4人が川浦谷廻行を計画したのだ。山岳部とはいっても北山を少し歩いた程度のずぶの素人に等しい者が一級沢へ挑むなど、無謀の極みであった。ところが幸運にも深い静をすり抜け、急峻な淵をへつ

りして、銚子滝までたどり着いた。

多少なりと沢歩きの知識があれば、我々の当時の実力からして、そこで撤退すべきであったのだ。それまでの廻行が偶然と幸運のなせる業であったことに気が付く能力もなく、銚子滝の右岸の小さな尾根に取りついて高巻きにかかった。シャクナゲの藪を漕ぎ上流の沢が近くに見えてきて、高巻きも終わったかに感じたその時、幸運は尽きた。リーダーの平澤 治君が音もなく私の視界から消えてしまったのだ。恐るおそる沢を覗くと、彼は浅い流れに意識を失って倒れているではないか。私はどうやって沢にまで降りたのか全く記憶にはない。残る二人も降りてきて、対応策を話し合った。重症であること、最悪の事態も覚悟して、とにかく地元へ知らせ救援を求めねばならない。少量の食料をもって、私は現場を離れた。

廻行をはじめてから二日で到達した銚子滝から人里まで、どれくらいの時間を要するか？しかし私が途中でへばっては事態はさらに面倒になろう。急がねばならないが、慎重を要した。来るときはかなりの時間をかけて通過した瀬や淵をどうやって通過したのか、まったく記憶にない。おそらく流れに乗って泳いだほうが早いし、楽だと判断したかもしれない。廻行をはじめた地点には半日で着いた。そこからは谷をはなれて一つ尾根をこえれば杉原である。そこでほとんど体力を使い果たして、意識も朦朧として倒れる寸前に幸いにも登山者にであい、その人たちに地元への連絡をお願いすることができた。翌、早朝に出発した地元消防団の方々による救援隊はすさまじい速さで現場へ到達した。残念なことに平澤君はすでに息を引き取っていた。遺体を運ぶ救援隊とともにわれわれも悄然と沢を降った。

これは62年前、1960年8月のことである。その当時の私たちがいかに山にかんして無知であったか、若さゆえの無謀な行動が招いた事故であった。

その後、山から離れてしまうこともなく半世紀以上の時が流れた。その間にもこの事故のこと、失った友のことが頭をよぎることはあっても、次第に記憶も薄れてきていた。このたび62年ぶりに溪谷の一部を再見する機会を得て、肅然とせざるを得なかった。それは最近の自分の生きざまが懦弱に流れつつあることへの警句ともおもえた。残された時間はきわめて限られている。その間に為すであろうことが黄昏に身を委ねることのみでは許されぬ。そうは言っても酒を断ちきなり修行僧のような生活を始めたりしたら、それは余りにも自分らしくない。ここはやはり身についた我がペースをまもって行くしかあるまい。



熊野神社の御杖杉



川浦谷の瀬

文学の山々 1

大和三山～酒船石遺跡の旅

上野陽子

大和三山と聞くと懐かしい気持ちになる。電車から眺めてそのうちに登ろうと過ごした山。今回登る機会ができた。山を男女に例え詠まれた万葉集を読んで行く。

近鉄奈良駅に9時集合。快晴。シカのフンを撮る松下リーダー

9:28 二台の車で出発。まず耳成山へ向かう。意外に遠いねと話しながら1時間後10:30 到着。左右対称になだらかな綺麗な山。山の南前に耳成山公園と池。その前を近鉄電車が走る。公園石碑の万葉の歌を皆で声に出し読み向かう。

10:45 登山口から歩き始め、10:52 すぐに神社があり、ここも皆でお参りして登る。看板には周回道のコース

が書かれ、小さい山ながら木が茂り緩やかな細い山道を縦に並んで登る。10:58 三等三角点のある頂上に到着。あっという間の登頂だが汗が滲む。

木々の間から町を見下ろし、しばし万葉人の気分、陽射しが強い。よし、次は畝傍山だ。皆、軽やかに下り 11:28 に耳成山公園に戻った。

出発の車から畝傍山は見えている。二等辺三角形の様な形。だが中々登山口に辿り着けない。広大な橿原神宮の杜に接し、近くには四基の天皇陵と塚があり、間の細い道をゆっくり走る。皆で地図を確認し、畝傍山神社を目指すことに、案内板を見つけさらに細い曲がった道を行くと神社の駐車場があった。そこから徒歩で 3 分程、曲がり道を行くと社殿が見えた。鳥居横に登山口の石碑、良かった！

また皆でお参りし、12:10 登り始めた。耳成山より少し大きな山。整備された階段を登ると山道になった。左右木に囲まれた道を行く。木陰でも暑くて汗が流れる。12:22 木の途切れた所から町の景色が広がる。遠くに二上山が見える。昔の人も見た景色だなあと汗を拭きながら思い、12:33 畝傍山国有林の看板の立つ広い頂上に着いた。標高 199.2 メートル面積 41 ヘクタールの死火山とある。中大兄皇子の歌を皆で詠み、少し先に見えている三等三角点に向かう。着いた！と各々三角点を撮り、広場で昼食となった。

開けた頂上を風が吹く。横たわる木や石にそれぞれ座り、二上山とそれに連なる金剛山を眺めながらのお弁当だ。もう二山も登ったねと笑いながら食べる。

13:30 下山開始。下山後、香久山に参加できるメンバー 2 人と合流し、香久山まで先導してもらう。

住宅に近い先の二山と違い、緑の田んぼの広がる長閑な道を行く。昔と大きく変わらないであろう景色の中、耳成山、畝傍山の位置を見て、三山の万葉の歌についてあれこれ話しながら行く。

14:10 香久山登山口着。蓮池もあり万葉の気分になる。この山に白い衣が干された情景を想像する。

合流メンバーに小学三年生の女の子もいて、皆が楽しく話しかけ明るい雰囲気になり 14:16 登山開始。鬱蒼と茂った森の登山口。腰までの草の中、一列で進む。途中、カマキリの子やキノコ、植物を見つけ話しながらのんびり登る。

14:30 頂上着。他の孤立峰に対し多武峰、音羽山に続く龍門山塊の一部、標高 152 メートル 9 ヘクタール、小さいが最もよく知られている山と。

頂上の天香山神社にお参り。木々の間から耳成山を望む。一日で三山登った！と皆で笑い、記念に全員で集合写真。楽しい山行になった。

下山して次はもう一つのテーマ松本清張「火の路」の酒船石を見に行く。この頃から雲行きが怪しくなっ

てきた。

車で 5 分程。飛鳥歴史公園 15:30 着。小高い丘の上まで 3 分で酒船石に着いた。大きい！東西約 5.5 メートル南北約 2.3 メートル厚さ約 1 メートルの花崗岩。上面に皿状の窪みやそれを結ぶ溝が刻まれている。酒を作った設備、薬を作った設備の仮説があるが果たしてどうか？占いや儀式用か等の意見を言い合い、石を眺めたり回ったりした。古代の謎とロマンだ。雨が落ち始め納得して下る。道脇に顔ほどもある大きな紫陽花の花があり皆顔を綻ばせ後にした。

雨が強くなってきた。ここで 2 組は解散。残る 4 人は隣接する国営飛鳥歴史公園館に入った。飛鳥周辺の史跡、石造物のパネル紹介、大化の改新や壬申の乱のアニメ紹介、当時の人々の生活の様子の人形、飛鳥時代の色とりどりの衣装の展示に感心し、万葉集は名もない民衆も詠んだ歌で、人々の楽しみになっていた事など話しながら見学を終えた。いにしえのまほろばへ想いを馳せる穏やかな時間となった。

カンカン照りの三山を登り、雨の中、歴史を思い、盛り沢山の一日になり新しい山行を楽しめた実り多い一日となりました。

皆さんお疲れ様でした。いろいろありがとうございました。

実施日：2022 年 6 月 25 日（土）

参加者：松下征文（L）、中川 寛、能田直子、
上野陽子、松下征悟、
（友の会）中尾光利
（一般）松下結衣子

北山探訪

念仏△726.8m(Ⅱ鶴ヶ岡村)

上田典子

北山探訪第 3 回目は、京都府北桑田郡美山町の由良川右岸の山塊にあって、高野集落の西、棚野川の支流の安井谷川の源流域に位置する。三角点「地藏杉」から東南に延びる尾根上の小さなピークだが、二等三角点が設置されている。「奈良井山」とも呼ばれているが、今西先生の記述には「念仏」が正しいとされているようだ。

梅雨の最中とあって天気が気になるが、美山地方は曇りという予報を信じて、周山街道をひた走り、安掛の道の駅で SL 氏と合流し（8:00）、高野集落 砂木の奥の安井谷川林道ゲートの下手に駐車する。支度をし

て出発する(8:35)。金網を張ったゲートは、ガッチリと施錠され、周囲は隙間もない。困った!!戻って、迂回していると、川の土手の草刈り作業中の方に出会い、L氏が事情を説明すると、気持ちよく、作業の手を止めて抜け穴を案内してくださった。おかげで、なんとか、林道に上がることができ、大感謝であった(9:00)。西に延びる約3kmの林道は、初夏の白い花と濃い緑と、安井谷の清流ですがすがしい。時には、あどけない童女の顔のようなマタタビの花の落花の白い絨毯に癒され、そっと踏まないように歩いたものだった。林道の兩岸のあちこちには、いわれは不明だが、「桑原」、「リョウボ谷」、「伊太郎山」、「狐顔」、、、、「舟迫」で一休み(9:35)。といった標識が設置されている。里人と山との繋がりを感じた。送電線の下を通過して林道が少し登り勾配になったら、じきに林道終点「口安井」についた。小さな広場になっている(10:05)。ここで、安井谷と別れて、右手の関電の巡視路に行く。始めはジメジメした谷筋だが、尾根に取り付くと巡視路の階段が出てきた。先頭に行くL氏は、「杉の葉のラッセルヤー」と言いながら、積もった杉の葉を落として、歩きやすくして下さり、感謝!ひと登りの急登で、第一鉄塔到着(10:15)。開けた明るいところで、休息をとる。次の第二鉄塔へは、急登とトラバースの踏み跡を登る。斜面下にたった一輪の白いイチヤクソウがひっそりと咲いていた。その場の雰囲気とマッチして好印象だった。第二鉄塔は、広場の奥の台地にあった。風の通る気持ちの良いところであったが、眺望は無かった(10:45)。お天気はどんどん良くなってきて、吹く風爽やか、虫も出ない快適さで、自然林の良さを存分に味わいながらの登高になった。しっかりした踏み跡になって、登り切ってP689に着いた(11:00)。巡視路はさらに北へ続くが、我々はP689から、西へ向かう。小さなアップダウンはあるが、疎林の尾根道をしばらく行くと、右手に林道が現れた。地図上でも、途中で終わっているので、どこまで、何のために作られたのか?北山らしい足に優しい静かな山稜を安井谷をはさんで、目指す「念仏」をチャリ見たりして行くと、関西電力(鶴ヶ岡)の反射板のあるジャンクションピークに着いた(11:30)。狭いが眺望の良いところである。ここから南への尾根に乗り、イワカガミの群生(花は終わっていた)する道を登り返すと、きょうの探訪先の「二等三角点 点名鶴ヶ岡△726.8m 念仏」に到着した(11:50)。クヌギや松、リョウブ等に囲まれて、半分以上土に埋もれた三角点は静かに我々を迎えてくれた。三角点の向かい側の木の根っこには、「念仏」の下に「奈良井山」山崎独歩会 1914.9.8 と書かれた標識があった。我々もSL氏の制作の三角点の記とともに、記念撮影をして、ランチタイムをゆっくり取った。西北方には、「地藏杉」

が、きょうは黙して座しているのが木の間から見える。何ということもないが、いつまでも座っていたい、、、そんな趣ある山頂であるが、(12:30)には、腰を上げて下山とする。今朝、L氏から、行事案内のルートを変更して、往路を下山とする旨を聞いていたので、ジャンクションピークへ戻り、P689(13:08)から急な下りを慎重に進み、「口安井」林道終点で一息つく(13:50)。朝の抜け穴から無事にゲート外側の駐車地に帰り着いた(14:45)。「念仏」の山名に惹かれて、極上の「北山の日」を堪能させていただいて、L、SL様には大感謝です。コロナ終息したら、下山の途中で眺めた麓の集落などで暮らしておられる方との交流もいいかなと思ったりして、帰路に就いた。

実施日:2022年6月25日(土)

参加者:田中昌二郎(L)、笠谷 茂(SL)、上田典子

山歩会例会

丹波の山多紀アルプス

一等三角点 御岳山(三嶽) 793.20m

大倉寛治郎

三嶽は小金ヶ嶽、西ヶ嶽の三山からなる多紀アルプス連山の最高峰である。

私にとって三嶽は、1980年と1982年に登った事があり今回の山歩会例会で三回目となる。41年前の記憶を想い出そうと頑張るがどうにも出てこない。

6月28日火曜日 JR.長岡京駅前に8時30分に9名が集合して、中川さん宇都宮さんの車2台に分乗して出発する。

長岡京ICに入り京都縦貫道亀岡ICを出て国道372号を篠山へ向かう。天引峠越えはトンネルの開通で国道も以前より改良されていて助手席から見ても驚くばかりです。

安田の大杉(巨木)のあるコンビニで小休止し、さらに進み目的の大タワ駐車場の三嶽登山口付近に駐車する。

以前の村道は未舗装道路で開けたところに駐車場があるだけでしたが、向かい側の小金ヶ嶽登山口駐車場には食堂があり、三嶽登山口にはトイレも設けてあり始めて訪れた時よりも開けていた。

当時の状況や風景を思い浮かべながら10時30分登山口から登る。

なだらかな登りを進むと急登の処に階段が設置され岩稜の所付近まで続く。一汗も二汗もかいて登り、開

けた所で振り返ると大タワ・小金ヶ嶽が見える。風が通り抜け熱くなった体を冷やしてくれる。岩場をまき進むと石室（役行者祀る）に着いた。

ここから道を進むと開けた所にある一等三角点標石、点名御岳山（三嶽）793.20m に到達した。40 年前の山頂には一等三角点御岳山標石があったが、今は三角点標石の横にコンクリート製の大きな方位台と御嶽山中継局棟ができて、周囲が開けて展望も良くなっている。

昼食を済ませのんびりとして、そよ風の誘惑と睡魔がくるほどの快適な山頂でした。

往路下山 13 時 47 分駐車場に戻る。

今回の山行は以前の記憶がなかなか出てこなかったが、それもまた楽しい例会でした。

担当者 L 中川さん車提供、宇都宮さん運転お疲れ様様でした。

実施日：2022 年 6 月 28 日（火）

参加者：中川 寛（L）、大倉寛治郎（SL）、上田典子、宇都宮道人、西田 均、能田直子、山口基継、（友の会）川寄紀久子、橋本裕子



三嶽山頂にて

近畿 2 府 4 県の低山一等三角点を登る

第3回 滋賀県 雨壺山と深溝村

川寄紀久子

今年は 6 月末に早々と梅雨明けしたが、不安定な天気が続いていた。

7 月 10 日、前夜からの雨は朝には上がったが降水確率は高い。JR 山科駅前ロータリーに参加者 12 名が集合（9 時）。本日のリーダー大槻さんから資料が配られた。直ぐに 3 台の車に分乗し名神高速京都東 IC に向かう。途中、大津 SA にて新入会された池上さんの紹介と、

今日のコースの説明があった。リーダーの車を先頭に、彦根 IC で高速を出て「千鳥ヶ丘公園」の無料駐車場に車を止める（10:40）

雨壺山（あまつばやま）（点名 雨壺山 137.03m）は、彦根東部に位置し、市街地の中央を流れる芹川を北山麓に、中央部が丘状に盛り上がった山です。戦国時代には平田山城が築かれ、関ヶ原の合戦時には佐和山城を攻略するため、井伊直正が本陣を敷いた所といわれている。周りに新神社、高松稲荷神社、御嶽神社がある。最近ではローラー滑り台等の遊具があり「千鳥ヶ丘公園」として地元民の憩いの場になっている。

登り口は公園の芝生広場の北端東屋の右横にあり、竹林に沿って進み途中で左に折れるとすぐに山頂に到着（10:52）。竹やぶに囲まれた雨壺山 137.03m 一等三角点、展望はない。記念撮影でじっとしていると、やぶ蚊に歓迎されて集中攻撃を受けた。急いで同じ道を下山、直ぐに虫よけスプレーをかけてもらう。入山前に虫よけ対策必須だった！

再び車で、芹川けやきみちを通り琵琶湖岸に出る。さざなみ街道沿いに走ると、松原水泳場に「鳥人間コンテスト」のプラットホームが建設されていた。手作りの人力飛行機が湖上に飛ぶ TV 番組。もう少し進み「田村辻町公園」で駐車し琵琶湖を眺めながらゆっくり昼食を摂った（11:45～12:27）。その時竹下さんから思いもよらぬ美味しいブルーベリーをいただく。ご馳走様でした。

次の三角点まで車で琵琶湖沿いを快適に走る。長浜城を通過し、竹生島が見えてきた。ちょうど 1 時間程走り海津大崎にて休憩する（13:35）。春なら花見客で騒がしい場所だが、茶店も静かでアイスクリーム等食べ湖岸の波に目を向ける。

次の深溝村一等三角点 86.76m（点名 深溝村 86.76m）は県道 333 号線の方譲別荘地にある。ここまでも、湖岸沿いに走り、目的地に着く。塀の横の草を刈るとしっかり保護石に守られた三角点の標石を発見



雨壺山の三角点にて

(14:28)。こんな所に一等三角点があるとは驚いた。

記念写真を撮って、近くにある道の駅しんあさひ風車村にてコーヒータ임 (14:35)。

ここで各方面に乗り換えて、解散する。最後に湖中に浮かぶ白鬚神社の朱塗りの鳥居を車中より見て、それぞれ帰路についた。

今日は琵琶湖の湖岸道路をほぼ1周するドライブ山行で、所々琵琶湖の素晴らしい景観を見ることができて楽しい1日でした。

実地日：2022年7月10日（日）

参加者：大槻雅弘（L）、中川 寛、大倉寛治郎、
能田直子、幣内規男、岡田茂久、竹下節子、
安藤勝浩、安藤恵子、山崎 泉
（友の会）川寄紀久子、池上清司



一等三角点

巨木と山岳展望の旅

山田和男

7月16日（土） 新型コロナの第7波の拡大が噂され、天気予報では日本各地で大雨や洪水の予報が放送されている中、四条大宮を午前8時に出発した。雲は垂れ込み、中央道に入っても山は全く見えない。

高速を松本I/Cでおり、梓川方面へ、所在地しか分からず探すのは困難と思っていたがネットに掲載されていた写真の建物を見つけ、「庚申堂のイチョウ」（幹囲5.1m）を観察した。そしてリング畑の中に「北条のサクラ」（幹囲4.2m、5.7m）2本が墓地と耕地に立っていた。少し北西に行ったところ県道25号に面して大宮熱田神社があり鳥居をくぐったところに「梓川のモミ」（幹囲6.3m）が立っていた。この神社、白馬方面から波田への途中にあり前を何度も通過していたが初めて参拝した。次の「中塔阿弥陀堂の枝垂れ桜」は松本・

安曇野の市境だが見つけることはできず次を急ぐ。旧三郷村に入り「住吉神社のヒノキ」（幹囲5.5m）が立っていた。このあたりはブドウ畑の中を走り山が美しいはずだが全く見えない。次は温郵便局の隣に「津島社のケヤキ」（幹囲5.2m）が立っていた。本日の宿へ松本から三才山トンネルを経て上田方面へ走り鹿教湯温泉の鹿月荘に投宿した。途中で雨が降ってきた。

7月17日（日） 朝起きたころは青空が見えたが今日も曇り空だ。国道254号を東へ152号に入ってすぐに「腰越諏訪社のケヤキ」（幹囲6.3m）が社殿に向かって右に立っていた。此处から美ヶ原を目指す。しかし展望台でも茅野方面は見えたが山は全く見えなかった。扉峠を経て松本へ降りる。「伊和神社の大ケヤキ」（7.9m、6.7m）が立っていたがいずれもかなり傷んでおり笠をかぶった様に保護されていた。「岡田神社旧参道のケヤキ」（幹囲6.2m、5.8m）は国道を離れて西へ岡田神社をめざして500mほど行ったがケヤキは国道を挟んで東に鳥居と並んで立っていた。「小立野の乳房イチョウ」（幹囲7m）は生坂村犀川の右岸に立っていた。乳房は幹に垂れ下がる気根のことだがこのイチョウは雄のようだ。ここから少し離れたところに「平七社のケヤキ」（幹囲5m）が立っていた。「赤地藏のケヤキ」（幹囲7m）はダム湖の左岸の小さな山稜を超える峠にあり、地元では布を覆われた地藏の方が有名なようだ。次は巨樹ではないが奇樹「オハツキイチョウ」は鷹狩山山中にある立派な寺、霊松寺に立っていた。この木の割ほどの銀杏がイチョウの葉に付いているそうだ。ここから小川村から鬼無里に向かう。小川村で松田敏



西岩瀬諏訪社の大ケヤキ

男先生の個展があると思ったが時間が遅く宿へ向かう。鬼無里の古民家の宿「燕（えん）」で囲炉裏端での夕食は美味しかった。

7月18日（月） 朝曇り空だが宿の周りを散歩する。天神川を渡って少し行くと春日神社があり鬼女紅葉伝説の立て看板があった。川沿いに散歩したが涼しく気持ちよかった。朝食後宿を出て「いろは堂のおやし」と物産直販所で土産を買って帰路に着いた。白馬、小谷を通り糸魚川 I/C へ、雨飾山は見えたような気がした。次に高速で滑川 I/C でおり、神通川左岸の「西岩瀬諏訪社の大ケヤキ」（幹囲 9.3m）は海水浴場の近くに立っている。ここは八重津湊があり富山藩の米の積出し港として栄えたそうだ。沖の航海者の目印として大切にされてきたそうだ。今回の巨木観察で最も立派な木であった。昼食は高速の SA で取ることにして帰路京都を目指した。三日間曇り空で山を見ることはできなかったが特段雨に降られることなく多くの木を観察することが出来た。

実施日：2022 年 7 月 16 日（土）～ 18 日（月）

参加者：山村孝夫（L）、柏木俊二、山田和男、
（会員外）仕名野完治

健幸登山教室 5

針ノ木岳登山

村松稜太

私にとって針ノ木岳の企画は JAC の会員になってから初めての泊まり登山だったので、とても楽しみにしていた。今までよりももっと様々な技術や知識を教えてもらえるとも思い心待ちにしていた。また、山をメインに描いている松田先生の個展も、私自身風景画を描いていた時期があったからどういうものか気になっていた。

南草津駅で集合し、4 人で松下さんの車に乗って企画が始まった。まず 1 日目は宿泊地である陀羅仏小屋に向かう前に、小川村にて催されている松田先生の個展を見に行った。先生の絵を見てまず思ったことは羨ましさだった。なぜかという先生は山をとて表情豊かに描かれているからだ。山やそれを取り巻く自然の美しさや恐ろしさ、力強さを一枚のスペースに収める。私はまるで絵に宿る強い力に吸い込まれるような感覚があった。そしてそのような技術を持っていられることはとても自由な事だと思った。私は特に印象に残った 2 枚の絵のポストカードを買った。

2 日目の天気は晴れていた。陀羅仏小屋から扇沢まで車で向かい、登山を始めた。1 時間ほど歩いたら大沢小屋につき、休憩をした。大沢小屋からまたさらにしばらく歩くと、北アルプスの三大雪渓の一つである針ノ木雪渓が見えてきた。この時、上野さんがヤママップを起動しているのを見て自分がヤママップの起動を忘れているのに気づいた。ヤママップは地図をダウンロードしなければならないが、私はそれも忘れていたのでこの日の記録をつける事が出来なかった。この反省は次に生かしたいと思う。

雪渓に入るとまるで洞窟にいるかのようにひんやりしていた。でも洞窟と違って広々としていた。ちょうど空が晴れていたのもとても開放的だった。

雪渓を出ると植生が変わっていた。チングルマが良く生えていた。1 時間ほど歩くと針ノ木山荘に到着した。山荘からは槍ヶ岳が良く見えた。頂上が天に向かって突き出た様子はまさに槍のようであった。

休憩した後、蓮華岳に向かった。蓮華岳ではコマクサが沢山咲いていた。小屋の人によるとこの時期は最盛期らしい。松下さんは「コマクサのような女性と結婚出来るように頑張れ」と言ってくれた。私は笑いながら「頑張ります！」と答えた。

下山後、私たちは山小屋に帰った。

3 日目の日の出は小屋で迎えた。小屋の外に出てみたら上野さんが先にいた。前日は見えなかった富士山が遠くによく見えたので写真を撮った。ただ、暗い色をした雲が出ていた。このまま雨が降らないといいですね、と話した。

針ノ木山荘から針ノ木岳に登った。この日は村上さんに登山のポイントを沢山教えてもらった。針ノ木岳は蓮華岳よりガレ場が多かった。ここでは落石など気を付けなければならないらしい。休憩場所に気を付けながら登った。針ノ木岳はコマクサの代わりにミヤマリンドウの蕾が咲いていた。隣の山でありながら植生が全く異なっており、不思議に思った。

針ノ木岳の山頂からは黒部ダムが見えた。黒部ダムをバックに 4 人で記念撮影した。

山頂から帰り、雪渓まで至った。この時はガスっていた。上野さんと私が雪渓の降り方のレクチャーを受けるために村上さんと私、上野さんと松下さんで分かれて行動する事になった。村上さんによると晴れの時のように雪は溶けず、雨の時のように山が崩れないから一番落石が飛んでくる心配が少ないそうだ。それでもシュルンドやスノーブリッジ、クレバスに気を付けないと転落の危険があるとも言っていた。また、落石になるべく当たらないようにする術も教えてくれた。雪渓には水が流れた跡が筋のように伸びていて、落石もそれに沿って進む。その水が流れた跡に入らなければ

ば落石に当たる心配は少ないという事を教えてくれた。また、辺りを見渡して落石が多く落ちている一帯には入らないようにすることも教えてくれた。あと、村上さんは登ってくる登山者に進行方向に落石が沢山落ちている事を教えていた。ちょうどガスっていたので登ってくる人には見えなかったのだ。自分たちだけではなく、他の登山者の安全にも気を配る姿勢を見習いたいと思った。また、歩き方のレクチャーも受けた。下りは踵から踏み込んで股は必ず気持ちバレーボール程の広さを保つ事を教わった。前者は雪渓を歩きやすくするため、後者はアイゼンでズボンを切らないようにするための工夫だ。この歩き方は次に雪渓に挑む機会や冬期登山でも意識したいと思う。

雪渓が終る場所は前日に登った時と異なる場所であった。村上さんは、雪渓は毎日溶け続けて形が変わるからその都度自分でルートを考えなければならないと言った。そしてすぐそばで渡渉することになった。前日は雪渓の上を歩いて沢を渡っていたが今回は直接渡る事になる。しかも雪渓が大量に溶けた影響で沢が増水しており、そのままでは渡れなかった。岩を沢に投げ込んで対処する事になった。私はよく考えずに岩を放り込んでいたが、岩の置き方は水流をふさがないようにすることが肝心であると村上さんに言われた。村上さんが岩を放り込んだ事で沢が渡れるようになった。

大沢小屋を経由して扇沢へと戻った。そし大町温泉郷の「薬師の湯」で温泉に浸かった後、京都方面へ帰った。

企画を通して松下さんと村上さんの熱心なレクチャーを頂けた。特に雪渓には初挑戦でわからない事が多かったが、安全に通るための様々な術を教えて頂いた。

《登山行程》

2日目

6:00 扇沢出発→7:30 大沢小屋→8:30 針ノ木雪渓下端→10:20 針ノ木雪渓上端→11:55 針ノ木小屋→12:38 小屋出発→14:26 蓮華岳山頂→14:36 山頂出発→15:40 針ノ木小屋

3日目

6:00 出発→7:12 針ノ木岳山頂→7:24 山頂出発→8:16 針ノ木小屋→8:45 小屋出発→9:23 雪渓上端→10:45 雪渓下端→11:00 雪渓下端出発→11:51 大沢小屋→13:30 扇沢到着

実施日：2022年7月23日（土）～25日（月）

参加者：松下征文（L）、村上正（SL）、上野陽子、
村松稜太

北山探訪

ムシンボ△665.2m(Ⅲ 深見)

田中昌二郎

R162号線深見トンネルを通過して直ぐ左の林道ゲート前に午前8時30分に集合。こんなヤマビルの活動時期に、よりによってと怒られながら出発の準備をする。確かに今西さんは2月に登っている。しかし仕方がない、めいめい足元対策に怠りはない。私は長年眠っていた雪山用のオーバーシューズをつける。

ムシンボはR162道路とおおよそ平行に東西に横たわる尾根の中央部に位置する。今回はその尾根の東の端から南へ入る古い林道から取り付く。目標尾根の南の谷への古い林道に入ると直ぐに害獣駆除檻が現れる。野生の濃いところのようだ。じめじめとしていてヒルの住处そのものの感じだ。

2.5万地形図に記載のある径の取りつき部分は崩壊していて消えている。草付きや植林伐採地の急斜面を高度差約100mよじ登ると地図記載の径に出た。径を辿って高圧鉄塔に上がると、直ぐ北にホサビ山が、更に遠く福井県境の山、多分頭巾山か、南を見ると愛宕と地蔵の特徴のある山容を望めた。

これからの尾根の藪がと心配しながら突入すると、樹間も広く藪もうすい。なだらかな尾根を西へ高度差約100mあまり登って・656に、更に小ピークを乗り越えながら・641を通過し、次の高圧送電線鉄塔に着く。

しかし、ここから・635を超えての下りの藪はなかなか濃いものだった。

大木が根から倒れて“ギャップ”が出来て、太陽の光を得た植物たちの生存競争が始まっているのだろう。サプリーダーの的確な誘導で乗り越え、なだらかな広葉樹林帯の中のプロムナードが待っていた。地形図の記載よりも痩せた印象の尾根を北へ辿ると、平坦な樹林の中のムシンボ665mの三角点に着いた。12時丁度だった。三等三角点 点名は深見。標石の四つの角が全て執拗に傷つけられているのには異常ささえ感じた。

このムシンボという変わった名前についてネットを見ると、修行者が「無心房」という庵を構えていたのにちなんだとの説が紹介されていたが、真偽のほどは不明。この平坦な尾根の上に僧房があったのだろうか？

昼食をとる。

40分ほど大休止して下山。往路を戻って・635を超え、高圧鉄塔に戻り、巡視路を北へ下山する。

これまで関電の巡視路の印象から、階段が設置されていて歩きやすく出来ているものと思っていたが、こ

の巡視路はなかなか厳しいものだった。鉄塔沿いに北へ急な谷の斜面を下り、トラバースしながら下るもので、黒い樹脂製の階段も省略されていて、特にトラバースには注意を要した。

トラバースを終わって尾根に上がると、後は尾根上のしっかりした巡視路を下り、急な金属製梯子二つを降りて林道八杉中ノ谷線に降り立った。R162に出ると車やバイクがガンガン飛ばしている街道歩き約2kmが少しづつかった。スタート地点の林道入口駐車地帰着は午後3時だった。

山行は無事終えたが、一つ注意するべきところもあった。

ムシンボへの向かう尾根上の植林と藪の境界を歩行中、一人が切り払いされた灌木の根に足を取られて頭から転倒することがあった。周りには鎌か草刈り機で刈られた鋭い切り口の灌木の根が残っていたから、もしこれで顔や首や胸を突いたら大事故になる。こういった地形の歩行には十分注意を払う必要があると痛感した。

実施日：2022年7月23日（土）

参加者：田中昌二郎（L）、笠谷 茂（SL）、上田典子、
藍野裕之、
（友の会）緒方由子



ムシンボ（Ⅲ深見）の三角点を囲んで

新版「山を考える」 （本多勝一著。1971年実業之日本社）

伊原哲士

遠い日の記憶が甦る。

子どもの頃は神戸の荒田の父方の伯母夫婦に育てられた。神戸は六甲の山並みが近い。或る時、「そこに何かがあるか」見てみたくなり独り山の方へ向かった。壁のような山裾を越えると巨大な池があり、池の向こうには尖った山が見えた。山に向かって大きな声を掛けると「やまびこ」が返って来た。伯母の家に戻ると、伯母は随分と捜していたらしく、私の姿を見るなり抱きしめ泣き崩れた。

大人になり、その山を再訪した。池は烏原貯水池、山は菊水山だった。成人の足で今なら JR 神戸駅から1時間半程度で行けるが、当時の7歳の子どもには大冒険だった。これが最初の「山」との出会いだった。

高校の時のクラブ活動はワンダーフォーゲル部だった。その時に出会った本が本多勝一著の『新版「山を考える」』だった。昭和46年3月1日発行で初版だった。定価は580円。高校一年生の時に直ぐに買ったのだろう。高一の夏山合宿は甲斐駒と仙丈岳だった。当時の駅弁が150円だったのを覚えているから、高価な本だった。旧版の『山を考える』は1966年発刊で新版は旧版を登山情勢の変遷から一部補完したしたものだろう。高校生には衝撃的な本であり、その後の私の登山観に大きな影響を与えた。

『新版「山を考える」』の内容は「パイオニアワークとは何か」と「山岳遭難の考察」の大きな二つに分けられる。

「序論」では誤解されている言葉としてマロリーの「そこに山があるから」が採りあげられている。世界最高峰の未踏峰「エベレスト」に挑戦し続け1924年に遭難した。

1922年に米国のフィラデル

フィアで講演した際に聴衆の質問に答えたものだ。未踏峰のエベレスト挑戦についての講演だったが、それを理解できない聴衆の心ない質問にマロリーは言葉足らずだったのは否めない。「そこに山があるから」は、正確には「未踏峰のエベレストに登る理由」として答えたものである。1953年に「エベレスト」はヒラリーらによって初登頂された。川喜田二郎は「ついにエベ



レストが陥落したのだ。失望落胆やる方なし。私はこの晩を決して忘れないだろう」と嘆く。「エヴェレストの頂上をきわめるといことは、エヴェレストが山であるかぎり登山にはちがいないけれども、また単なる登山を超えた何ものである。」(今西錦司『ヒマラヤを語る』)の「パイオニア精神」を脈々と受け継いでいる京都大学学士山岳会の川喜田二郎ならではの嘆きだろう。

余談だが「エベレスト」と括弧で表現した。現在は「エベレスト」はチベット側ではチョモランマ、ネパール側ではサガルマータと呼ぶ。日本の富士山に最初に登頂したオールコックが、「これからはこの山をオールコック山と呼ぼう」として世界に広げたら日本人は不愉快だろう。歴史と文化を背景にしている名称は大切である。そこに生きる人々の名称を大事にしたい。

「パイオニアワークとは何か」、「ヒマラヤ墮落論」、「パイオニアワークとは何か」余録で本多勝一は「パイオニアワーク」を喪失した京都大学学士山岳会を嘆く。「パイオニアワークの騎手を自他共に許していた」京都大学学士山岳会に「その伝統を発揮すべき対象がなくなってしまった」。「目的自体が変質した時、なおも組織がそのままの形で生きようとする、必ずアナクロニズムに陥ります」。今も共感できる痛い言葉である。日本山岳会京都支部の頃に今西錦司が『支部だより』に「陰謀団体たれ」の小論を寄せた。マロリーが聴衆の質問に嘆いたように、今西の「陰謀団体たれ」も、「パイオニアワーク」が原点だ。理解できる人も少なくなった。

主に1970年代後半から1980年代前半に活動した関西学生山岳連盟(AAVK)の連中が年に一度は集まりを持つ。その意味、我々もまたアナクロニズムに陥る。今年は富山県の馬場島に集まった。雨だった。60代は若い方で70代が大半だ。近くの馬場島荘に泊まる者、テントで寝る者、雨具のみで野外で寝る猛者もいた。馬場島は劔岳の拠点だったが今は人が少なく路線バスも運行されていない。関西の岳人の拠点の地でもあった。馬場島には関西学生山岳連盟関係の大学の遭難慰霊碑も多くある。大学山岳部も多くは消えた。日本山岳会に入っている者、退会した者も居る。大学山岳部、日本山岳会と一つの流れだったが、供給源としての大学山岳部が廃れた。「どちらも役割をおえたのかなあ」という諦めの雰囲気がかたよう。生き残っている組織は「新たな目的を設定し、組織改革」をおこなっているのだろう。大学山岳部、日本山岳会もそれが出来なかった。

『新版「山を考える」』は遭難についても多く書かれている。「遭難の社会性について」、「西欧の山岳会と遭難対策」「遭難の報道記事」などである。

山の遭難は美化されていた。それに一石を投じたの

が1959年10月の東京大学スキー山岳部の穂高岳遭難についての正田桂一郎の記事である。「何を語るか? 東大生らの遭難」「英雄扱い、お門違い。準備不十分の事故死」とセンセーショナルな見出しで始まる記事は、その後の山岳遭難報道の流れを変えた。正田桂一郎は山岳部等の出身ではない。山岳遭難の記事は、山岳部等の経験者が書くのが定番だった。山では「シロウト」だったが、それ故に本質をついた遭難記事を書いた。山の記事は「山のベテラン記者」が書くというのが迷信となった記事でもあった。

「遭難の報道記事」の「中部山岳地帯の現場をたずねて」の項には、3件の遭難について書かれている。1962年11月に中部山岳地帯だけで十余件の遭難が発生し、19人が亡くなった。奥穂高岳の遭難はツエルトも持たない装備不足の遭難だった。間ノ岳の遭難は、初めてパーティーを組んだ5人の内、4名が亡くなった。生死を分けたのは衣類だった。助かった一人だけウールの下着を着けていた。ウールは濡れても暖かい。槍ヶ岳北鎌尾根の遭難は、装備をまともに持たない無謀登山者に巻き添えをくった。4人中、2名が亡くなった。

「ヒマラヤ墮落論」と「パイオニアワークとは何か」余録は、京都大学山岳部が「山岳部」と「探検部」に分離した頃の話。これらについては日本山岳会京都・滋賀支部には当事者が居るので直接話を聞いたことがある。「山岳部で基礎をつくってヒマラヤを目指す」グループと「世界の人々がヒマラヤを目指す中、悠長なことを言っているとヒマラヤに行けなくなる」と言うグループに分かれた後者が探検部となりOBになると京都大学学士山岳会に合流した。

『新版「山を考える」』の本の大きなテーマは「冒険とは何か」だったのかもしれない。この本と出会って50年が過ぎた。買ったときのまま今も手元にある。考えさせられる本だった。(本文、敬称略)

自己紹介欄

◎山本 善丈 (No.16878)

私が登山を始めたきっかけは造園の仕事に就いて、より本物の自然に触れ、自然観を高めたかったからです。山には雄大な景色から何の変哲もない足元の景色まで心動かされる瞬間があります。そうした日常では味わえない感動を求めて山に登っています。主に滋賀県近郊の山に登りますが雪山はまだ経験がありません。この会で雪山登山の技術も身につけ四季折々の風景を堪能したいと

思っています。そして長く安全に登山を楽しめるように基本的な技術や知識を身につけたいと思います。

◎上殿 弥生 (No.A0437)

上殿弥生と申します。52歳、歯科の仕事をしています。昨年9月に、堂満岳と武奈ヶ岳に初めて登りました。その時に言葉にできない感情が出てきて、また行きたいと毎日思うようになりました。山歩きは、8月に天王山周辺と奈良の音羽三山に行き、12月に雪が積もるまで比良の山に行きました。今年3月初めにどうしても比良の山が見たくなり、一人で朝登山届けを書いていたら吹雪になり、空を見上げて考えている時に山岳会の方々とお会いし、アイゼンの使い方まで教えていただき、この日、大山口辺りまで初めて雪の上を歩き、入会をお願いすることになりました。山を歩き、人間の放置したごみの多さに驚き、できる範囲でゴミ拾いをしながら、何か役立つことができないかと考えながら歩いていました。山道を整えることや小屋の手入れ等参加させていただきたいと思いました。まだ山を歩くということを始めたばかりですが、山や人に役立つことをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

健幸登山教室 8

北小松人工壁

日 時：2022 年 10 月 16 日（日）
 集 合：北小松げんき村駐車場
 内 容：スポーツクライミングトレーニング
 ピッチクライミングのロープワーク
 ラペリング
 参 加 費：友の会 1500 円（施設使用料含む）
 担 当 者：松下征文
 申 込：山行申込書をメールで 10 月 5 日（水）迄

健幸登山教室 9

リトル比良

日 時：2022 年 11 月 20 日（日）
 行 程：リトル比良
 集 合：JR 近江高島駅前 7:55
 地 形 図：1/25000 図「北小松」、「比良山」
 内 容：読図、JR 近江高島～滝山經由寒風峠
 担 当 者：松下征文
 参 加 費：友の会 1000 円
 申 込：山行申込書をメールで 11 月 10 日（木）迄

健幸登山教室 10

冬山入門と読図

日 時：2022 年 12 月 18 日（日）
 集 合：金勝（こんぜ）アルプス
 地 形 図：1/25000 図「瀬田」、「三雲」
 内 容：読図、歩行
 山行の目安：体力 2、技術 3
 担 当 者：松下征文
 参 加 費：友の会 1500 円
 申 込：山行申込書をメールで 12 月 10 日（日）迄

ダンダ坊整備と懇親会

日 時：2022 年 10 月 30 日（日）
 内 容：ダンダ坊枯れ木倒木処理、懇親会
 集 合：レスキュー小屋 8:30
 そ の 他：作業しやすい服装手袋
 担 当 者：真名子栄一
 申 込：参加申込をメールで 10 月 25 日（火）迄
 又は、レスキュー比良ラインにて申込

第 6 回武奈ヶ岳の日

日 時：2022 年 12 月 14 日（水）
 行 程：坊村より武奈ヶ岳
 集 合：坊村駐車場 8:00
 地 形 図：1/25000 図「比良山」
 山行の目安：積雪状況で 4 となります。
 担 当 者：松下征文
 申 込：山行申込書をメールで 12 月 5 日（月）迄

近畿二府 4 県の 低山一等三角点を登る山行

この山行は、今年度新しく取り組んだ年間シリーズです。高齢の方も若い人も楽しく地図の原点である一等三角点を二府 4 県、6 回巡ります。初心者の方には、地図の勉強を兼ねて歩きます。

第 4 回 京都府

多祢寺山 (点名 多祢寺山 556.25m)

日 時：2022 年 10 月 16 日（日）8 時 00 分
 集 合：JR 京都駅八条口「都ホテル京都八条」前（旧・都ホテル）
 行 程：JR 京都駅八条口 8:00 ⇒ 沓掛 IC ⇒ 京都縦貫自動車道 ⇒ 舞鶴若狭自動車道 ⇒ 舞鶴東 IC ⇒ 10:30 多祢寺駐車場 ⇒ 12:00 一等三角点 多祢寺山 ⇒ 往路下山 ⇒ 多祢寺見学 ⇒ 16:30 JR 京都八条口

地 形 図：1/25000 図「丹後由良」「西舞鶴」

担 当 者：大槻雅弘

申 込：10月13日（木）までに所定事項記入の上、
FAX 又はメールで担当者まで。

備 考：年間スケジュールでは、23日計画しましたが
が担当者の都合により、16日に変更しました。

第5回 奈良県

神野山 (点名 神野山 618.38m)

日 時：2022年12月11日（日）8時30分

集 合：JR 京都駅八条口「都ホテル京都八条」前（旧
新・都ホテル）

行 程：JR 京都駅八条口 8:30 ⇒ 上鳥羽 IC ⇒ 京奈和
自動車道 ⇒ 木津 IC ⇒ 郡山 IC ⇒ 名阪自動車
道 ⇒ 名阪国道神野口 ⇒ 10:30 神野神社 ⇒ 12:00
一等三角点神野山 ⇒ 往路下山 ⇒ 16:30 JR 京都
八条口

地 形 図：1/25000 図「柳生」「大和白石」

担 当 者：大槻雅弘

申 込：12月8日（木）までに所定事項記入の上、
FAX 又はメールで担当者まで。

備 考：時間があれば、大変珍しい4等三角点「箕輪」
を訪ねます。道路脇にあります、その珍し
さは、現地の楽しみにします。

巨木探訪シリーズ

(10月、11月)

日 時：2022年10月27日（木）

11月24日（木）

担 当：山村孝夫

*行先、集合場所等については、担当者に問い合わせる。

*長らく続けてきた本シリーズは、本年11月をもって
終了いたします。今後は、不定期に巨木を探訪する予定
で、その都度本欄で案内いたします。

北山探訪

桑谷山△ 924.9m（長戸）

日 時：2022年11月12日（土）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：花脊原地町⇒大悲山峰定寺⇒・813⇒930m
ピーク⇒桑谷山（Ⅲ長戸）⇒930m ピーク⇒
往路下山、又は・801⇒久多峠（車2台使用
の場合）

地 形 図：1/25000 図「花脊」「久多」

山行の目安：体力：3、技術：3 {注} 少々藪漕ぎある
かも

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：11月4日（金）までに所定事項記入の葉書、
FAX またはメールで担当者まで

フカンド山、光砥山△ 853.5m（奥ノ谷）

日 時：2022年11月19日（土）・・・（年間計画か
ら変更しています）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：能見川沿い駐車適地⇒C510⇒・857⇒・
856⇒フカンド山・951⇒・927⇒・897⇒光
砥山（Ⅲ奥ノ谷）⇒久多峠⇒駐車地

地 形 図：1/25000 図「久多」

山行の目安：体力：4、技術：3 {注} 藪漕ぎあり

担当者・リーダー：笠谷 茂

申 込：11月11日（金）までに所定事項記入の上、
メールで担当者まで

忘年山行 小倉山・296m

日 時：2022年12月17日（土）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：二尊院⇒嵯峨鳥居本⇒六丁峠⇒小倉山・
296⇒嵐山公園
嵐山公園（水道、トイレ完備）にて、各自持
ち寄りの飲み物、肴で忘年会

地 形 図：1/25000 図「京都西北部」

山行の目安：体力：2、技術：2

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：12月9日（金）までに所定事項記入の葉書、
FAX またはメールで担当者まで

テント泊山行

氷ノ山△ 1509m

目的の山域・山名：中国山地の脊梁上東部にあり、氷ノ山・後山・那岐山国定公園を構成する中国地方第二の高峰

日 時：2022年10月8日（土）～9日（日）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：8日（土）中国自動車道⇒播但連絡道路⇒R9
經由⇒氷ノ山国際スキー場⇒テント設営
9日（日）東尾根登山口⇒避難小屋⇒一の谷
⇒神大ヒュッテ⇒古生沼⇒氷ノ山山頂（I 氷ノ山）⇒氷ノ山越⇒地藏堂⇒多田ケルン⇒林道⇒登山口

地 形 図：1/25000 図「氷ノ山」

実 働：登り 標高差約700m、実働2時間30分程度、
下山 約3時間程度
山行の目安：体力：3、技術：3

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：9月17日（土）までに支部所定事項記入し、
FAX またはメールで担当者まで

「未知の山旅シリーズ」（第11回）

日 時：2022年10月13日（木）～18日（火）

目的の山域：越後・南会津方面

担 当 者：笠谷 茂

申 込：8月末をもって終了

山のスケッチ

金勝アルプス天狗岩を描く

日 時：2022年10月13日（木）

集 合：①道の駅こんぜの里栗東
午前9時30分

又は、②五糸丸北東角 午前8時00分に
出発

持 ち 物：スケッチ用具、20分程度の山行できる靴

担 当：山田和男

申 込：10月6日（木）までに所定事項記入の上、
葉書、FAX またはメールで担当者まで。
集合は①又は②を明記してください。
尚、10月12日午後6時の滋賀県南部の天気
予報が降雨確率50パーセントを超えるとき
は中止します。

歴史と文化の山旅

「再訪 近つ飛鳥風土記の丘」
(小雨決行)

近つ飛鳥風土記の丘は日本を代表する群集墳である
「一須賀古墳群」を保存し、直接に貴重な文化財に触れ
て、学べる史跡公園です。総面積29ヘクタールの園内
には102基の古墳が保存されています。そのうち40基
の整備された古墳内部を見学します。

古墳内部は暗く虫類も多く、前は梅雨時の為に驚愕
した方もいました。今回は寒い頃なので、虫はいません。
ヘビ類も冬眠しているはずで。

日 時：2022年12月17日（土）

集 合：近鉄喜志駅改札前 午前9時

行 程：近鉄京都駅（7:14 発近鉄京都線急行橿原神宮
前行き）-（8:25 着）橿原神宮前駅 -（乗り換え）
- 橿原神宮前駅（8:31 近鉄南大阪線急行大阪
阿倍野行き）-（8:52 着）古市駅 -（乗り換
え）- 古市駅（8:57 発近鉄長野線準急河内長
野行き）-（9:00 着）喜志駅

山行の目安：体力1、技術1 歩行時間約4時間

昼食弁当 雨具 持参

（申し込み・問い合わせ）

伊原哲士

山歩会例会

古城山（282.81m）

豊臣秀吉 ゆかりの城跡、街道を歩こう

日 時：2022年10月25日（火）

集合場所・時間：JR 貴生川駅改札口、午前10時

※アクセス（JR 京都駅 8:56 発⇒草津 9:18 着
（乗換）⇒草津 9:26 発⇒貴生川 9:53 着）

行 程：貴生川駅⇒水口スポーツの森⇒水口宿⇒大岡
寺⇒登山口⇒古城山（四等 282.81m）⇒（往
路下山）⇒登山口⇒水口スポーツの森⇒水口
こどもの国⇒盆天山（三等 245.8）經由⇒貴
生川駅

地 形 図：1/25000 図「水口」

山行の目安：体力1、技術1

担 当 者：中川 寛

申 込：10月18日（火）までに所定事項記入の上
FAX またはメールで担当まで

剣尾山 (784m)

10 年前に例会で登った頂上からの大展望をもう一度楽しもう

日 時：2022 年 11 月 22 日（火）

集合場所・時間：参加者に連絡

行 程：集合場所⇒能勢の郷駐車場→登山口→摩崖
仏→行者山（四等 683m）→六地藏→剣尾山
（784m）→（往路下山）→能勢の郷駐車場

地 形 図：1/25000 図「埴生」「妙見山」

山行の目安：体力 2、技術 2

担 当 者：中川 寛

申 込：11 月 15 日（火）までに所定事項記入の上
FAX またはメールで担当者まで

* 自家用車を利用しますので車の提供をお願いします。

忘年山行・松尾山 (276m)

京都一周トレイルを歩き忘年会を楽しむ

日 時：2022 年 12 月 13 日（火）

集合場所・時間：阪急上桂駅 13 時

行 程：上桂駅→苔寺→松尾山→阪急嵐山駅→嵐電嵐
山駅→白梅町→忘年会会場

地 形 図：1/25000 図「京都西北部」

山行の目安：体力 2、技術 2

担 当 者：中川 寛

申 込：11 月 29 日（火）までに所定事項記入の上
FAX またはメールで担当者まで

会 務 報 告 支部役員会

第 436 回支部役員会

2022 年 5 月 11 日（水）18:30～20:15（於）鴨沂会館
出席：12 名 欠席：14 名

「報 告」

4 月、5 月に実施された健幸登山教室・比良山縦走、
低山一等三角点を登る・城山、北山探訪・伊賀谷山、
未知の山旅・南九州方面、巨木探訪・福井方面、山歩会・
竜王山、今西錦司レリーフの集いについて報告。

支部長・事務局長報告

健幸登山教室に対し、本部より 2022 年度特別補助
金 20 万円認定の連絡あり。

本会員 4 名、準会員 1 名、友の会 3 名の入会、友
の会 4 名の退会があった。

会計担当、古道調査担当委員より現状報告。

「計 画」

5 月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

京都新聞に掲載してきた「丹波の山々」「京都の
山々」「近江の山々」を軸に本として出版することと
なり、対応を協議。

第 437 回支部役員会

2022 年 6 月 1 日（水）18:30～20:15（於）鴨沂会館
出席：17 名 欠席：9 名

「報 告」

5 月に実施された健幸登山教室・北小松人工壁ク
ライミング、低山一等三角点を登る・コウノ巣山、
歴史と文化の山旅・高所集落遺跡とロックガーデン
を訪ねて、巨木探訪・兵庫県村岡地区方面、北山探訪・
オークラノ尾、山歩会・雪野山について報告。

支部長・事務局長報告

自分より若い新入会員の獲得に努力を継続するよ
う要請。準会員 1 名入会。

会計担当、古道調査担当委員より現状報告。

「計 画」

6 月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

京都新聞出版センターとの打ち合わせ結果、出版
編集会議での決定事項について大槻委員より報告。
今西錦司レリーフ基金の会計報告。

第 438 回支部役員会

2022 年 7 月 6 日（水）18:30～20:15（於）鴨沂会館
出席：17 名 欠席：9 名

「報 告」

6 月に実施の健幸登山教室・金比羅山岩場クライ
ミング、テント泊登山・那岐山、巨木探訪・岐阜方

面、文学の山々・大和三山、北山探訪・念仏、山歩会・三嶽について報告。

支部長・事務局長報告

遭難が多発している、注意喚起。新入会・退会者報告。会計担当、古道調査担当委員より現状報告。

ホームページ担当委員よりホームページ掲示板について説明。

支部だより編集委員に藍野会員が就任。

「計 画」

7月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

京都新聞出版センターよりの発刊について進捗状況確認。京都新聞への連載企画「信仰と伝説の山と里—京滋の伝承文化を歩く」について八木監事より提案。

(中川 寛記)

——次号 149 号 予告——

2022年12月15日発行 原稿締切10月31日(月)

原稿送付先 編集担当 藍野裕之

E-mail: h.aino@icloud.com

＝ あ と が き ＝

今この支部だより編集作業中に、線状降水帯発生ニュースで、滋賀県長浜市の高時川氾濫のテロップあり。みんなが登山される、横山岳や奥伊吹の山々の地域です。山中でこんな凄い雨に遭ったら、谷には下りられない、体温は奪われていくし、遭難の一步手前の状態に陥りますね。特にこれからの山登りには、今までになかったことも考えて山登りをしてほしい。支部だよりも、みんなの会報そしてよりよい情報を、会員同士で伝え合いたいものです。安全第一の山登りを楽しみましょう。

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより148号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6

松下征文方

日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 松 下 征 文

編集者 幣 内 規 男

印 刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8

(株)土倉事務所

TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

関西発日帰り

海をながめる山歩き

● 絶景を楽しむ



若狭湾・青葉山稜線の展望台からのながめ

著者◎ 草川啓三 (くさがわ・けいぞう)

1948年京都市生まれ。20歳の時鈴鹿霊仙山へ登ったのがきっかけで登山を始め、滋賀、京都の山を中心に歩き続ける。

著書に『近江の山を歩く』『鈴鹿の山を歩く』『伊吹山案内』『雪山を愉しむ』『登る、比良山』など多数。

9月の新刊

厳選

30
コース

若狭湾
熊野灘
紀伊水道
瀬戸内海 etc.



1,760円(税込)・A5判・152頁

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

◎ 関西の主な書店で発売中！



【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間：10：00～19：00

休日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車
コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車
コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】

〒601-8205

京都市南区久世殿城町 162

営業時間：10：30～18：00

休日：毎週水曜日・木曜日

TEL：075-921-8679

I FEEL THE WIND



The Japanese Alpine Club

日本山岳会

会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jac1.or.jp/>



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします！

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで！

取扱い
ブランド

gan well

PIRELLI

inelli

vittoria

HED. DOLAN

PINARELLO

LOOK

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec

など